

# 油症患者に係る健康実態調査結果の報告

平成 22 年 3 月

油症患者健康実態調査の解析に関する懇談会

# 目次

はじめに.....	1
<b>第1 調査の概要.....</b>	<b>2</b>
1 調査の目的.....	2
2 調査の対象.....	2
3 調査実施年度.....	2
4 調査項目.....	2
5 調査の方法.....	2
6 調査の実施状況.....	2
<b>第2 調査の結果.....</b>	<b>3</b>
1 調査対象者、回答者等の属性について.....	3
2 治療・療法等について.....	5
3 生活習慣について.....	8
4 健康・悩み・ストレスについて.....	18
5 介護の状況について.....	29
6 これまでにかかったことのある病気等について.....	34
7 油症発症当時の家族の状況について.....	64
8 油症発生からこれまでの症状について.....	66
9 油症事件後に生まれたお子さんについて.....	68
10 油症事件後に生まれたお孫さんについて.....	70
11 医療、検診等について.....	72
12 調査票の自由記載欄について.....	74
<b>別表 調査結果の性・年齢（5歳階級）別集計表.....</b>	<b>77</b>
参考資料	
・ 「油症患者健康実態調査の解析に関する懇談会」構成員名簿.....	162
・ 油症認定患者の皆様へ ～健康実態調査へのご協力のお願いと調査のご説明～.....	163
・ 同意書.....	166
・ 連絡票.....	167
・ 調査票.....	169
・ かかりつけの先生へ（医師以外の医療関係職種の方を含みます。） ～健康実態調査へのご協力のお願い～.....	231

## はじめに

カネミ油症は、昭和 43（1968）年 10 月に、九州を中心とする西日本一帯に発生した大規模食中毒事件である。米ぬか油の製造過程で熱媒体である PCB が混入し、生産過程で生成されたダイオキシン類である PCDF 等が原因となり、米ぬか油を摂取した被害者に、皮膚症状をはじめとする全身症状が発生した。

発生から 40 年以上経過した現在でも、油症患者の方々の中には、高い血中 PCB 濃度を示す方や様々な症状に苦しんでいる方がおられるが、治療法については、いくつかの薬剤について臨床試験が行われているものの、残念ながら確実な治療法は未だ確立されていない。

カネミ油症健康実態調査事業は、平成 19 年 4 月与党カネミ油症問題対策プロジェクトチーム（当時）において、「カネミ油症のダイオキシン類の直接の経口摂取による健康被害であるという特殊性を考慮し、油症研究の加速的推進に資する」ことを目的として実施が決定された。調査の実施に当たっては、患者団体の代表・自治体・有識者からなるワーキンググループ（座長：九州大学・古江増隆教授）を全国油症治療研究班に設置し、調査項目を決定する段階から患者の方々のご意見を取り入れながら調査票を作成した。平成 20 年度に、厚生労働省から関係都府県に委託し調査を実施した。

調査は、平成 19 年 4 月 24 日時点で生存されている認定患者及び平成 20 年度に新たに認定された方 1,420 人を対象に実施し、1,131 人の方から回答をいただいた。調査票は、昭和 43 年当時から今までの、患者の方々の方々の状況について実情を正確に把握するため、患者本人もしくはご家族等に直接記入していただいたものである。

本懇談会（座長：福岡県保健環境研究所・吉村健清所長）では、平成 21 年 6 月から平成 22 年 3 月にかけて、調査の結果を解析した。油症患者についての調査は、これまでも厚生労働省の全国油症治療研究班（班長：九州大学・古江増隆教授）において行われてきたが、本調査は、認定患者全員を対象に油症発症当時の患者の方々お一人お一人の状況（症状、治療内容、ご家族の状況、日々の悩みや不安など）を詳細に記載していただいた初めてのものである。本報告書では、自由記載欄については個人情報の問題もあり代表的な意見のみ掲載したが、これまでの生活上の悩みや健康上の不安、これまで胸に抱えてきた思いなどが詳細に綴られており、患者及びご家族の方々のご苦労を慮ることができた。

本調査については、ご高齢の対象者も多く記憶が不鮮明であることから一部調査が困難であった。また、医学的・科学的解析を行ううえでさまざまな点で限界があった。しかしながら、本調査結果を解析することにより、油症発症時から現在までのご家族の状況を詳細に把握することが可能となり、重要な情報を得ることができたことは、意義深いことである。

今後、本調査結果については、全国油症治療研究班（厚生労働科学研究費補助金による）において、これまでの検診結果等と併せてより詳細な解析が行われる予定である。また、当該研究班の相談員においても、本調査の情報を活用し、よりきめ細かな対応が期待される。

関係自治体や研究機関等において、本報告を広くご活用いただければ幸いである。

今回の調査は、患者の方々、そのご家族、自治体等の関係者の方々の多大なるご協力により行われたものであり、ご協力に心から感謝申し上げます。

平成 22 年 3 月

座 長 吉村 健清

## 第1 調査の概要

### 1 調査の目的

本調査は、カネミ油症のダイオキシン類の直接の経口摂取による健康被害という特殊性を考慮し、油症研究の加速的推進に資することを目的とする。

### 2 調査の対象

平成19年4月24日時点で生存している認定患者及び平成20年度に新たに認定された者計1,420人。

### 3 調査実施年度

平成20年度

### 4 調査項目

本人に関する事項（生年月日・生活習慣など）、健康状態・病気・症状等に関する事項、治療・療法等に関する事項、家族に関する事項（子・孫含む）など。

なお、調査項目は、患者団体の代表・自治体・有識者等による議論を経て決定したものである。

### 5 調査の方法

- (1) 厚生労働省から、油症患者が在住する31都府県に本調査を委託
- (2) 各都府県は、油症患者に調査票等を送付し、調査に協力いただける場合は、本人もしくは家族等が調査票等に記入の上、各都府県に返送
- (3) 返送された調査票について、調査員等が内容を確認し、必要に応じて、調査協力者、かかりつけの医師等に照会
- (4) 各都府県においてデータの入力及び整理を行い、その結果を厚生労働省へ提出

### 6 調査の実施状況

各都府県で把握している調査対象者1,420人のうち、従前から油症に関する連絡を拒否している者、事前の意向確認にて調査に協力しない旨の回答を得た者及び所在不明の者を除いた1,331人に対し、「同意書」、「連絡票」、「調査票」等を郵送し調査を実施した。そのうち、回答のあった者は1,131人、回収率は85.0%（男86.1%、女84.0%）であった。

以下の報告は、本調査に回答があった1,131人についてとりまとめたものである。

「割合」の計算において使用する分母は、表中に記載しているNの値とする。  
年齢階級表内の年齢は、平成21年3月31日現在である。

## 第2 調査の結果

### 1 調査対象者、回答者等の属性について

本調査の対象は、平成19年4月24日時点で生存している認定患者及び平成20年度中に新たに認定された者1,420人であり、そのうち、以前から油症に関する連絡を拒否している者、事前の意向確認にて調査に協力しない旨の回答を得た者及び所在不明の者計89人を除いた1,331人に調査票等を送付した。そのうち、調査に同意しないと連絡があった者が71人、連絡のなかった者が129人であり、調査票の返送があった者（回答者）が1,131人である。

調査対象者の平均年齢は61.3歳（男59.4歳、女63.0歳）となっている。男性の年齢の幅は31歳～96歳であり、女性の年齢の幅は31歳～100歳であった。

回答者の平均年齢は61.7歳（男60.1歳、女63.1歳）となっている。男性の年齢の幅は31歳～96歳であり、女性の年齢の幅は33歳～100歳であった。

各集団の男女比及び年齢階級については、表1-1から表1-4、図1-1のとおりである。

表 1-1 調査対象者、回答者の男女比

	調査対象者 (N=1420)		回答者 (N=1131)	
	件数	割合	件数	割合
男	683	48.1%	550	48.6%
女	737	51.9%	581	51.4%
計	1420	100.0%	1131	100.0%

図 1-1 回答者の年齢階級

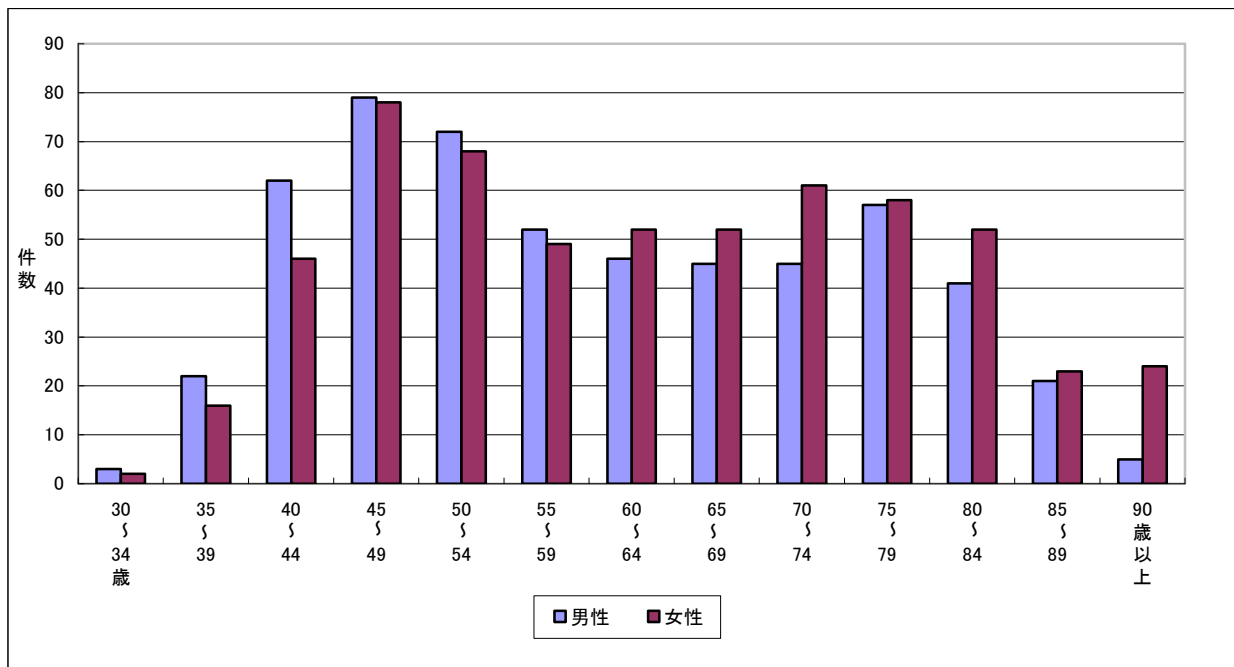


表 1-2 調査対象者数、回答者数及び年齢階級別回答者の割合（総数）

	対象者(N=1420)		回答者(N=1131)		回答者の割合
	件数	割合	件数	割合	
30～34歳	7	0.5%	5	0.4%	71.4%
35～39	46	3.2%	38	3.4%	82.6%
40～44	139	9.8%	108	9.5%	77.7%
45～49	201	14.2%	157	13.9%	78.1%
50～54	200	14.1%	140	12.4%	70.0%
55～59	130	9.2%	101	8.9%	77.7%
60～64	109	7.7%	98	8.7%	89.9%
65～69	106	7.5%	97	8.6%	91.5%
70～74	129	9.1%	106	9.4%	82.2%
75～79	144	10.1%	115	10.2%	79.9%
80～84	115	8.1%	93	8.2%	80.9%
85～89	59	4.2%	44	3.9%	74.6%
90歳以上	35	2.5%	29	2.6%	82.9%
計	1420	100.0%	1131	100.0%	79.6%

表 1-3 調査対象者数、回答者数及び年齢階級別回答者の割合（男）

	対象者(N=683)		回答者(N=550)		回答者の割合
	件数	割合	件数	割合	
30～34歳	3	0.4%	3	0.5%	100.0%
35～39	27	4.0%	22	4.0%	81.5%
40～44	82	12.0%	62	11.3%	75.6%
45～49	98	14.3%	79	14.4%	80.6%
50～54	107	15.7%	72	13.1%	67.3%
55～59	66	9.7%	52	9.5%	78.8%
60～64	52	7.6%	46	8.4%	88.5%
65～69	49	7.2%	45	8.2%	91.8%
70～74	55	8.1%	45	8.2%	81.8%
75～79	62	9.1%	57	10.4%	91.9%
80～84	50	7.3%	41	7.5%	82.0%
85～89	27	4.0%	21	3.8%	77.8%
90歳以上	5	0.7%	5	0.9%	100.0%
計	683	100.0%	550	100.0%	80.5%

表 1-4 調査対象者数、回答者数及び年齢階級別回答者の割合（女）

	対象者(N=737)		回答者(N=581)		回答者の割合
	件数	割合	件数	割合	
30～34歳	4	0.5%	2	0.3%	50.0%
35～39	19	2.6%	16	2.8%	84.2%
40～44	57	7.7%	46	7.9%	80.7%
45～49	103	14.0%	78	13.4%	75.7%
50～54	93	12.6%	68	11.7%	73.1%
55～59	64	8.7%	49	8.4%	76.6%
60～64	57	7.7%	52	9.0%	91.2%
65～69	57	7.7%	52	9.0%	91.2%
70～74	74	10.0%	61	10.5%	82.4%
75～79	82	11.1%	58	10.0%	70.7%
80～84	65	8.8%	52	9.0%	80.0%
85～89	32	4.3%	23	4.0%	71.9%
90歳以上	30	4.1%	24	4.1%	80.0%
計	737	100.0%	581	100.0%	78.8%

## 2 治療・療法等について

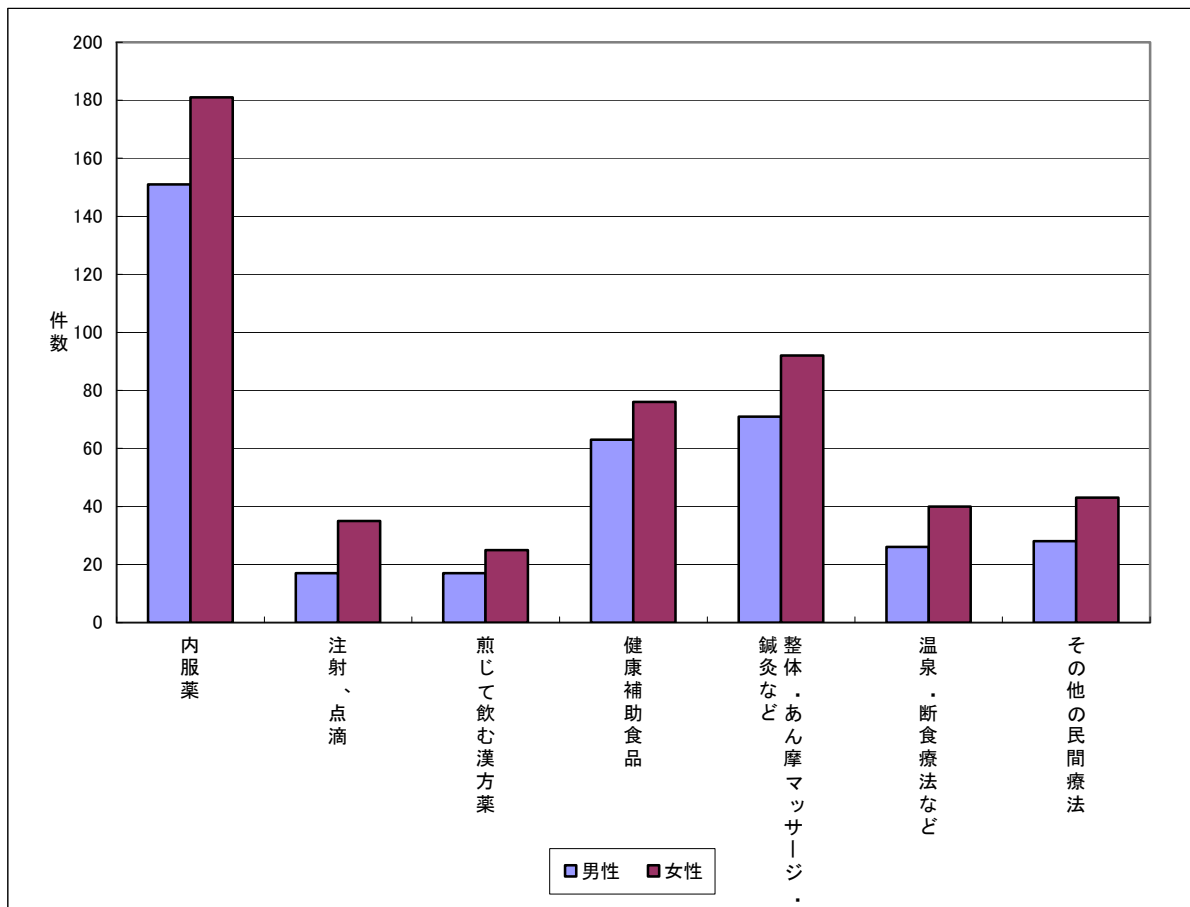
### (1) 効果が実感できる（できた）治療・療法等について

現在行っているものも含めてこれまでに行った治療・療法等のうち効果が実感できる（できた）ものについてみると、「内服薬」と回答した者が 29.4%（男 27.5%、女 31.2%）と最も多く、次いで、「整体・あん摩マッサージ・鍼灸など」14.4%（男 12.9%、女 15.8%）、「健康補助食品」12.3%（男 11.5%、女 13.1%）、「その他の民間療法」6.3%（男 5.1%、女 7.4%）、「温泉・断食療法など」5.8%（男 4.7%、女 6.9%）、「注射、点滴」4.6%（男 3.1%、女 6.0%）、「煎じて飲む漢方薬」3.7%（男 3.1%、女 4.3%）の順となっている（表 2-1、図 2-1）。

表 2-1 効果が実感できる（できた）治療・療法等（複数回答）

	男性(N=550)		女性(N=581)		計(N=1131)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
内服薬	151	27.5%	181	31.2%	332	29.4%
注射、点滴	17	3.1%	35	6.0%	52	4.6%
煎じて飲む漢方薬	17	3.1%	25	4.3%	42	3.7%
健康補助食品	63	11.5%	76	13.1%	139	12.3%
整体・あん摩マッサージ・鍼灸など	71	12.9%	92	15.8%	163	14.4%
温泉・断食療法など	26	4.7%	40	6.9%	66	5.8%
その他の民間療法	28	5.1%	43	7.4%	71	6.3%

図 2-1 効果が実感できる（できた）治療・療法等（複数回答）



効果が実感できる（できた）具体的な治療・療法等についてみると、温泉と回答した者 6.5%（男 4.7%、女 8.1%）が最も多く、次いで鍼灸 4.8%（男 3.6%、女 5.9%）、あん摩マッサージ 4.4%（男 3.1%、女 5.7%）、整体 4.4%（男 3.8%、女 5.0%）等の順となっている（表 2-2）。

なお、本表の薬剤名等は、あくまでも本人等が調査票に記載したものをそのまま集計したものである。

表 2-2 効果が実感できる（できた）主な薬品、食品、治療、療法（自由記載）

	男性(N=550)		女性(N=581)		計(N=1131)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
温泉	26	4.7%	47	8.1%	73	6.5%
鍼灸	20	3.6%	34	5.9%	54	4.8%
あん摩マッサージ	17	3.1%	33	5.7%	50	4.4%
整体	21	3.8%	29	5.0%	50	4.4%
ノルバスク	13	2.4%	13	2.2%	26	2.3%
ロキソニン	12	2.2%	12	2.1%	24	2.1%
ビタミン	10	1.8%	12	2.1%	22	1.9%
アムロジン	7	1.3%	13	2.2%	20	1.8%
どくだみ草	9	1.6%	11	1.9%	20	1.8%
ガスター	9	1.6%	9	1.5%	18	1.6%
アリナミン	8	1.5%	6	1.0%	14	1.2%
バイアスピリン	7	1.3%	7	1.2%	14	1.2%
チラージン	0	0.0%	13	2.2%	13	1.1%
メパロチン	5	0.9%	8	1.4%	13	1.1%
アローゼン	1	0.2%	9	1.5%	10	0.9%
メチコパール	5	0.9%	5	0.9%	10	0.9%
アダラート	4	0.7%	5	0.9%	9	0.8%
セルベックス	4	0.7%	5	0.9%	9	0.8%
葛根湯	6	1.1%	3	0.5%	9	0.8%
断食	5	0.9%	2	0.3%	7	0.6%
電気治療	5	0.9%	2	0.3%	7	0.6%

上記集計は、調査票P3の「1. 内服薬」～P5の「7. その他の民間療法」をまとめて件数の多い主な、薬品、食品、治療、療法を集計した。

本表の薬剤名等は、あくまでも本人等が調査票に記載したものをそのまま集計したものである。

※計を降順に並べ替えた。



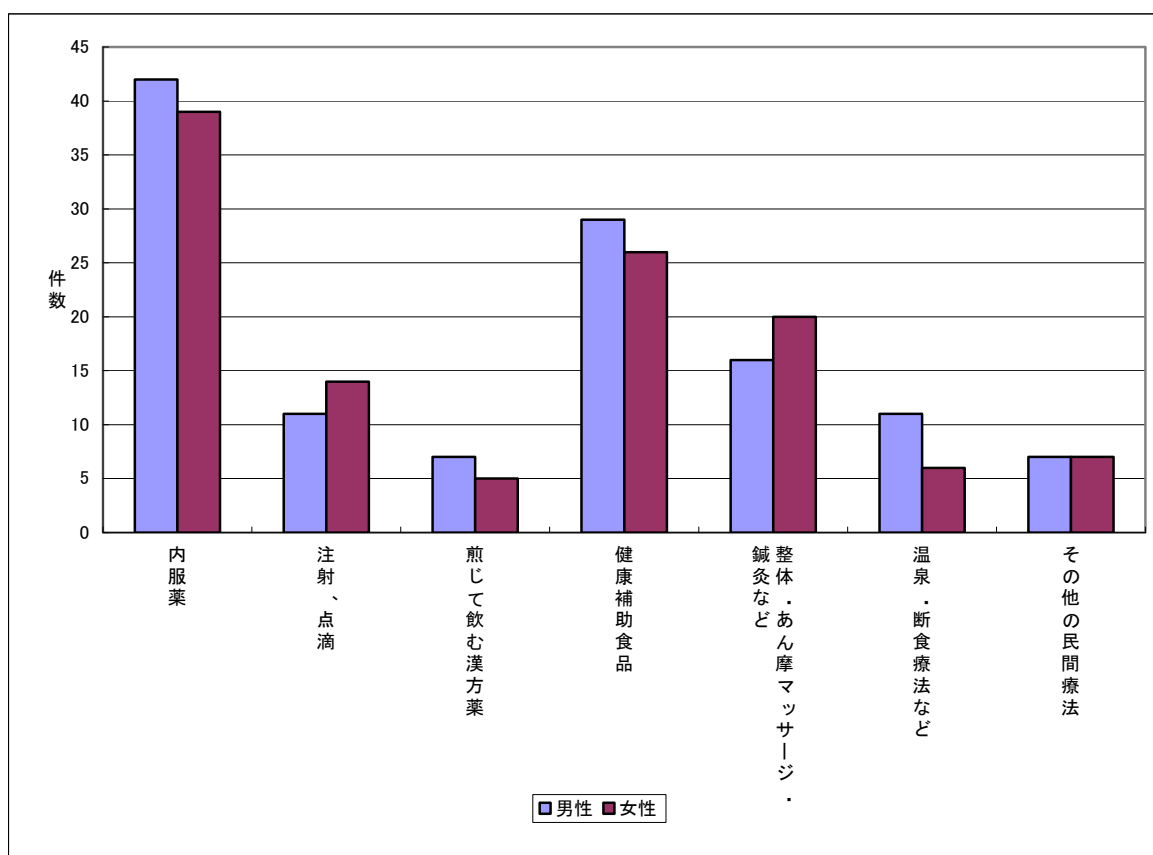
(2) 体に合わなかった又は効果がなかった治療・療法等について

現在行っているものも含めてこれまでにを行った治療・療法等のうち体に合わなかった又は効果がなかったものについてみると、「内服薬」と回答した者 7.2% (男 7.6%、女 6.7%) が最も多く、次いで、「健康補助食品」4.9% (男 5.3%、女 4.5%)、「整体・あん摩マッサージ・鍼灸など」3.2% (男 2.9%、女 3.4%)、「注射、点滴」2.2% (男 2.0%、女 2.4%)、「温泉・断食療法など」1.5% (男 2.0%、女 1.0%)、「その他の民間療法」1.2% (男 1.3%、女 1.2%)、「煎じて飲む漢方薬」1.1% (男 1.3%、女 0.9%) の順となっている (表 2-3、図 2-2)。

表 2-3 体に合わなかった又は効果がなかった治療・療法等 (複数回答)

	男性(N=550)		女性(N=581)		計(N=1131)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
内服薬	42	7.6%	39	6.7%	81	7.2%
注射、点滴	11	2.0%	14	2.4%	25	2.2%
煎じて飲む漢方薬	7	1.3%	5	0.9%	12	1.1%
健康補助食品	29	5.3%	26	4.5%	55	4.9%
整体・あん摩マッサージ・鍼灸など	16	2.9%	20	3.4%	36	3.2%
温泉・断食療法など	11	2.0%	6	1.0%	17	1.5%
その他の民間療法	7	1.3%	7	1.2%	14	1.2%

図 2-2 体に合わなかった又は効果がなかった治療・療法等 (複数回答)



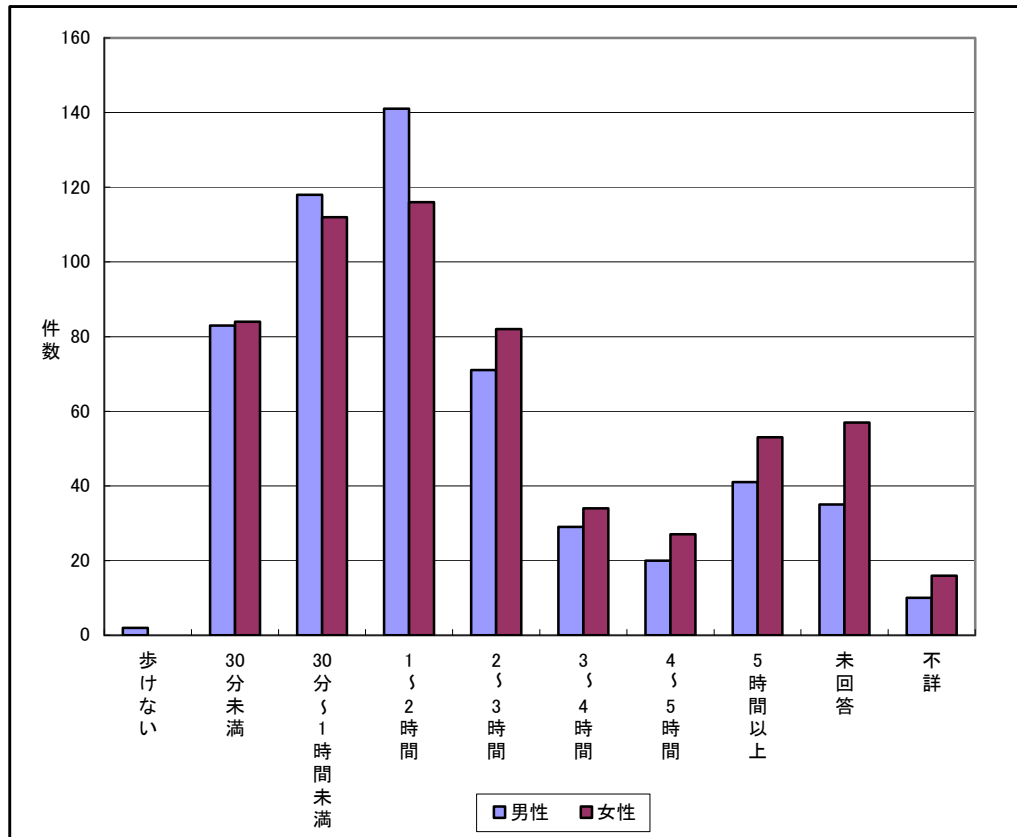
### 3 生活習慣について

1日の歩行時間についてみると、「1～2時間」と回答した者が22.7%（男25.6%、女20.0%）と最も多く、次いで、「30分～1時間未満」が20.3%（男21.5%、女19.3%）、「30分未満」が14.8%（男15.1%、女14.5%）等の順となっている（表3-1、図3-1）。

表 3-1 1日の歩行時間

	男性(N=550)		女性(N=581)		計(N=1131)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
歩けない	2	0.4%	0	0.0%	2	0.2%
30分未満	83	15.1%	84	14.5%	167	14.8%
30分～1時間未満	118	21.5%	112	19.3%	230	20.3%
1～2時間	141	25.6%	116	20.0%	257	22.7%
2～3時間	71	12.9%	82	14.1%	153	13.5%
3～4時間	29	5.3%	34	5.9%	63	5.6%
4～5時間	20	3.6%	27	4.6%	47	4.2%
5時間以上	41	7.5%	53	9.1%	94	8.3%
未回答	35	6.4%	57	9.8%	92	8.1%
不詳	10	1.8%	16	2.8%	26	2.3%
計	550	100.0%	581	100.0%	1131	100.0%

図 3-1 1日の歩行時間

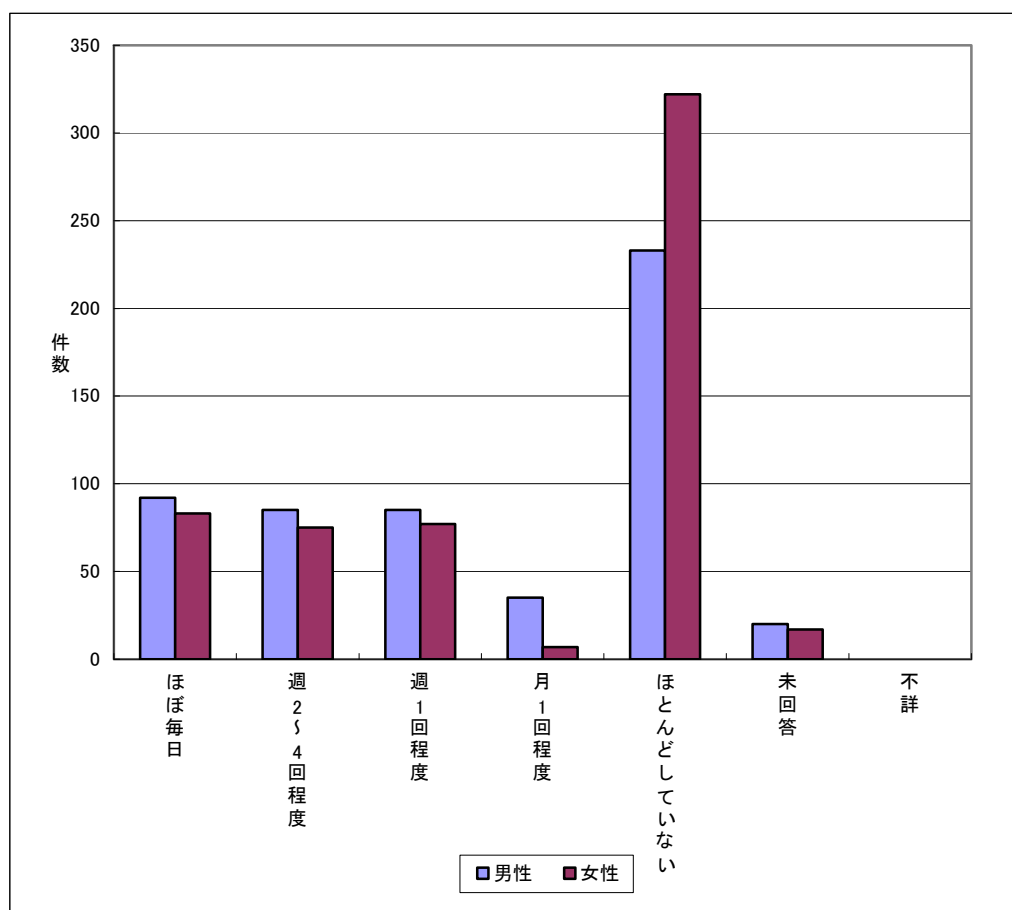


運動頻度についてみると、「ほとんどしていない」と回答した者が 49.1% (男 42.4%、女 55.4%) と最も多く、次いで、「ほぼ毎日」が 15.5% (男 16.7%、女 14.3%)、「週 1 回程度」が 14.3% (男 15.5%、女 13.3%) 等の順となっている (表 3-2、図 3-2)。

表 3-2 運動 (スポーツ) 頻度

	男性 (N=550)		女性 (N=581)		計 (N=1131)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
ほぼ毎日	92	16.7%	83	14.3%	175	15.5%
週2~4回程度	85	15.5%	75	12.9%	160	14.1%
週1回程度	85	15.5%	77	13.3%	162	14.3%
月1回程度	35	6.4%	7	1.2%	42	3.7%
ほとんどしていない	233	42.4%	322	55.4%	555	49.1%
未回答	20	3.6%	17	2.9%	37	3.3%
不詳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	550	100.0%	581	100.0%	1131	100.0%

図 3-2 運動 (スポーツ) 頻度

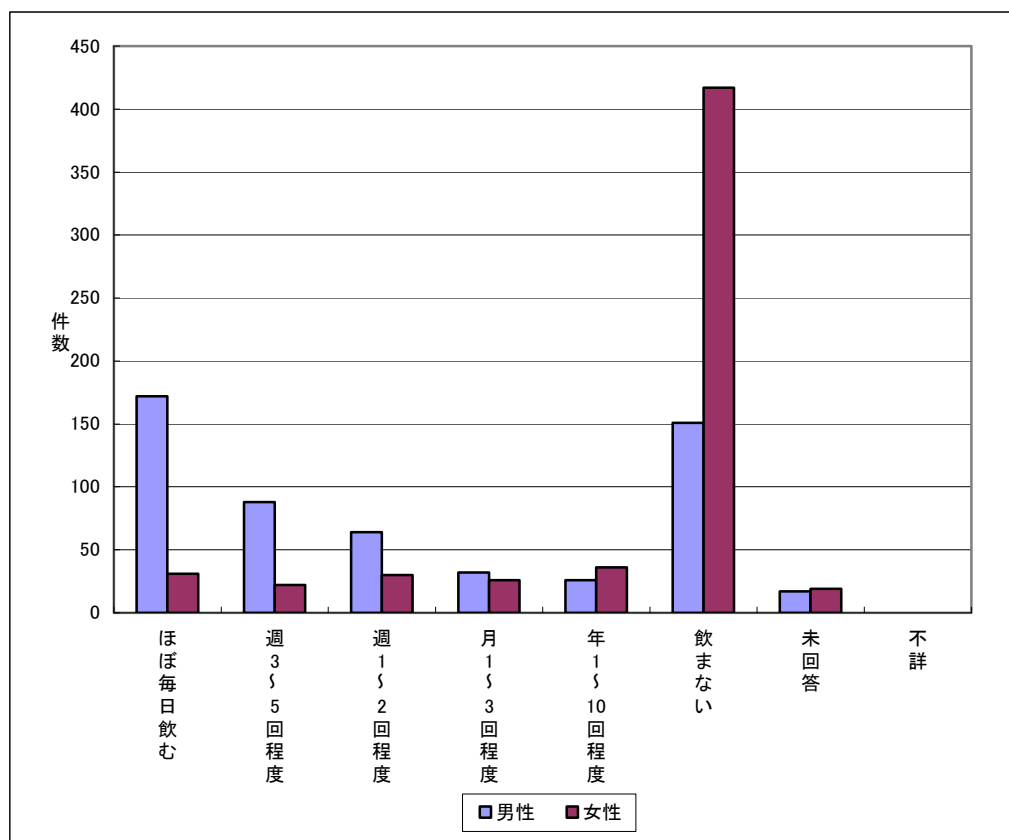


飲酒頻度についてみると、男性では「ほぼ毎日飲む」と回答した者が31.3%と最も多く、女性では「飲まない」と回答した者が71.8%と最も多かった(表 3-3、図 3-3)。

表 3-3 飲酒頻度

	男性(N=550)		女性(N=581)		計(N=1131)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
ほぼ毎日飲む	172	31.3%	31	5.3%	203	17.9%
週3~5回程度	88	16.0%	22	3.8%	110	9.7%
週1~2回程度	64	11.6%	30	5.2%	94	8.3%
月1~3回程度	32	5.8%	26	4.5%	58	5.1%
年1~10回程度	26	4.7%	36	6.2%	62	5.5%
飲まない	151	27.5%	417	71.8%	568	50.2%
未回答	17	3.1%	19	3.3%	36	3.2%
不詳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	550	100.0%	581	100.0%	1131	100.0%

図 3-3 飲酒頻度

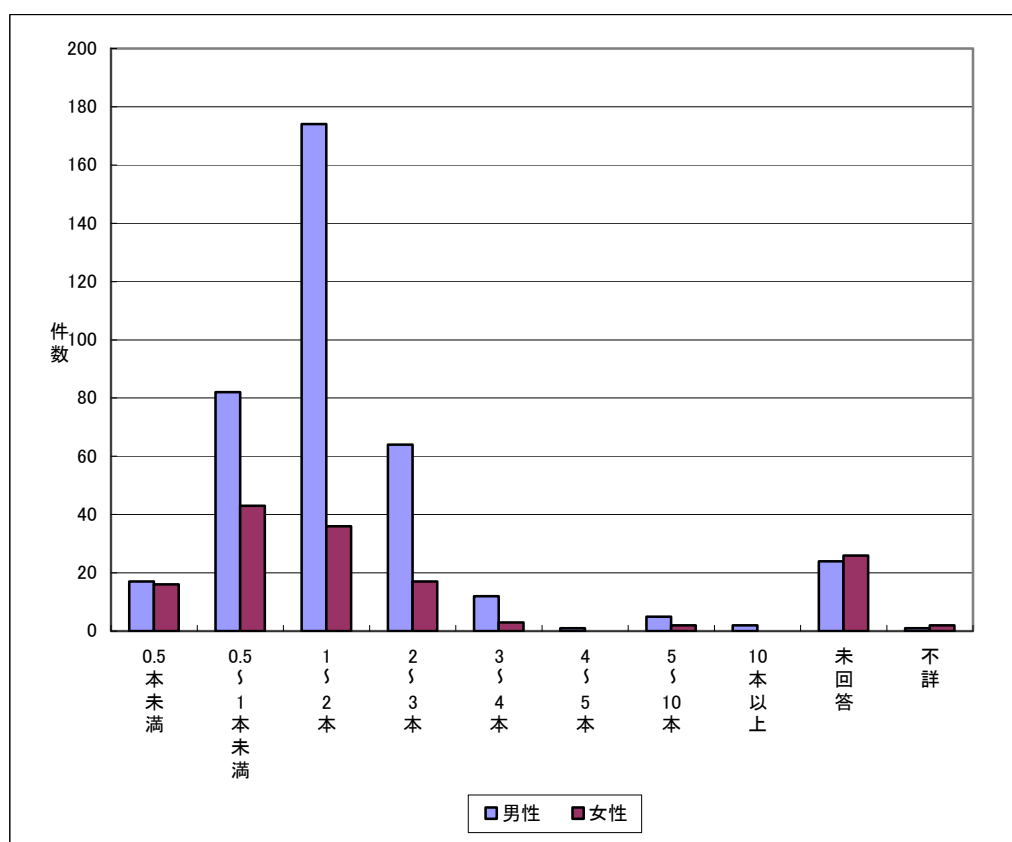


飲酒をすると回答した 527 人の 1 日の飲酒量（ビール大瓶換算）についてみると、男性では「1～2本」が 45.5%と最も多く、女性では「0.5～1本未満」が 29.7%と最も多かった。全体では、「1～2本」が 39.8%（男 45.5%、女 24.8%）と最も多く、次いで「0.5～1本未満」が 23.7%（男 21.5%、女 29.7%）等の順となっている（表 3-4、図 3-4）。

表 3-4 飲酒量（ビール大瓶換算）

	男性(N=382)		女性(N=145)		計(N=527)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
0.5本未満	17	4.5%	16	11.0%	33	6.3%
0.5～1本未満	82	21.5%	43	29.7%	125	23.7%
1～2本	174	45.5%	36	24.8%	210	39.8%
2～3本	64	16.8%	17	11.7%	81	15.4%
3～4本	12	3.1%	3	2.1%	15	2.8%
4～5本	1	0.3%	0	0.0%	1	0.2%
5～10本	5	1.3%	2	1.4%	7	1.3%
10本以上	2	0.5%	0	0.0%	2	0.4%
未回答	24	6.3%	26	17.9%	50	9.5%
不詳	1	0.3%	2	1.4%	3	0.6%
計	382	100.0%	145	100.0%	527	100.0%

図 3-4 飲酒量（ビール大瓶換算）

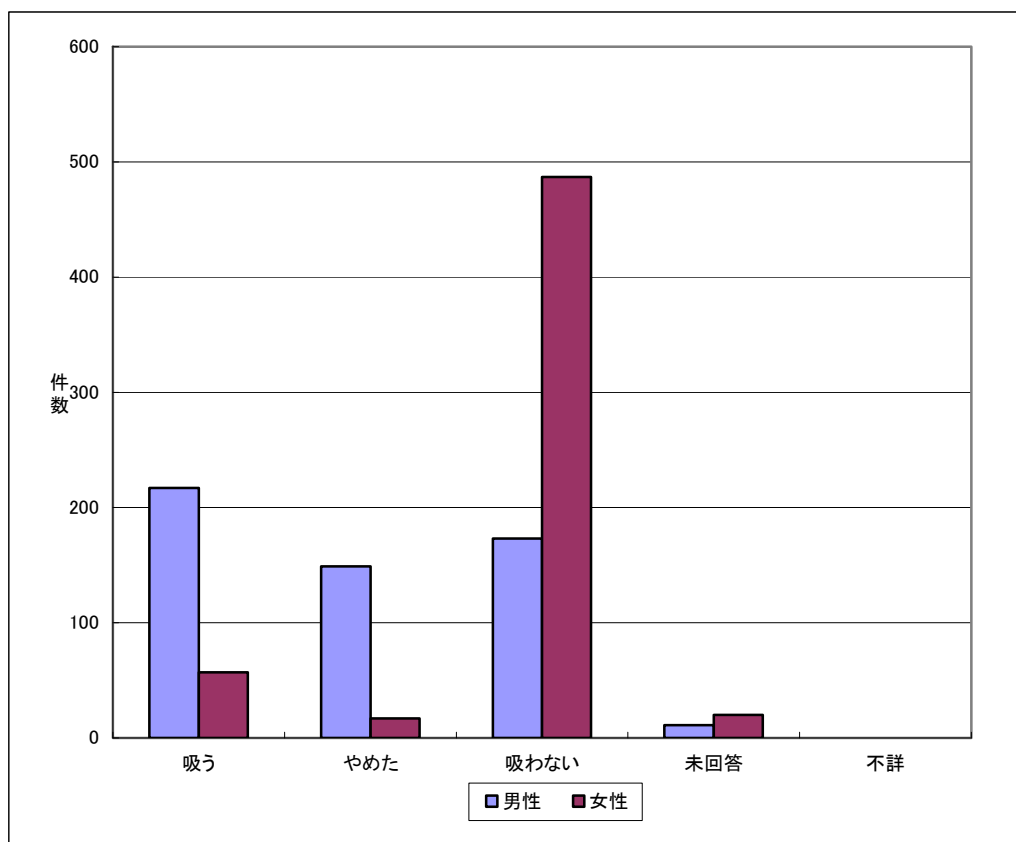


喫煙状況についてみると、男性では「吸う」と回答した者が 39.5%と最も多く、女性では「吸わない」と回答した者が 83.8%と最も多かった（表 3-5、図 3-5）。

表 3-5 喫煙状況

	男性(N=550)		女性(N=581)		計(N=1131)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
吸う	217	39.5%	57	9.8%	274	24.2%
やめた	149	27.1%	17	2.9%	166	14.7%
吸わない	173	31.5%	487	83.8%	660	58.4%
未回答	11	2.0%	20	3.4%	31	2.7%
不詳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	550	100.0%	581	100.0%	1131	100.0%

図 3-5 喫煙状況

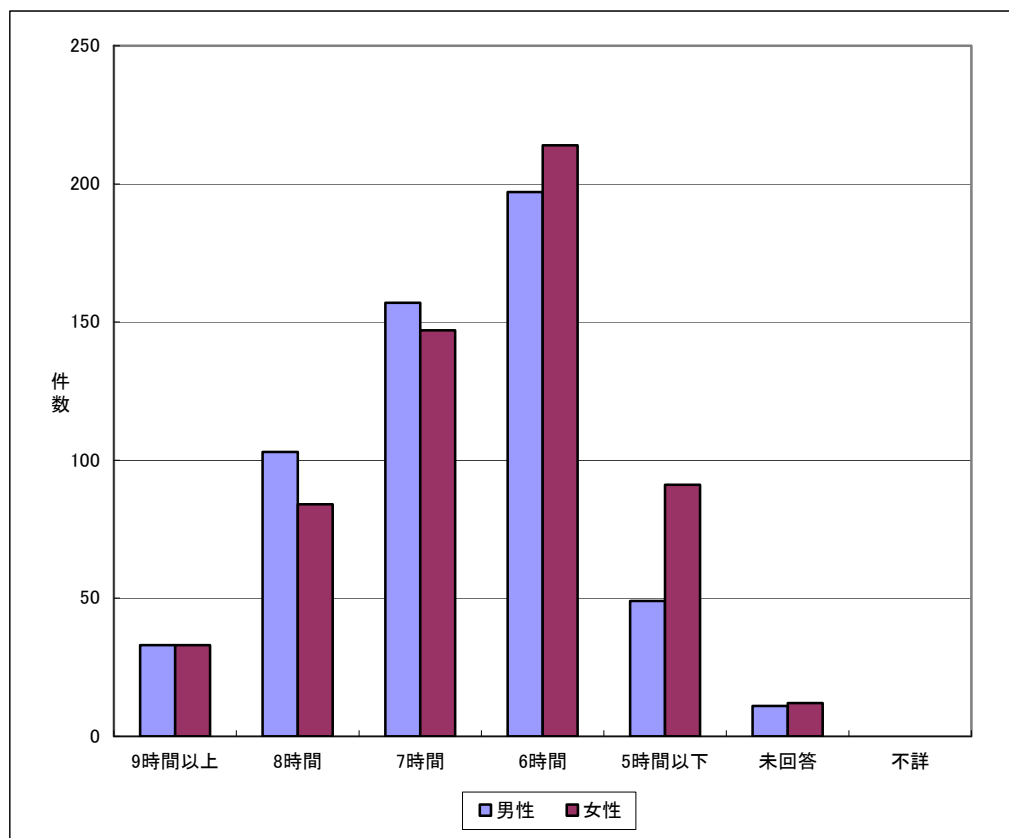


睡眠時間についてみると、「6時間」と回答した者が36.3%（男35.8%、女36.8%）と最も多く、次いで、「7時間」が26.9%（男28.5%、女25.3%）、「8時間」が16.5%（男18.7%、女14.5%）等の順となっている（表3-6、図3-6）。

表 3-6 睡眠時間

	男性(N=550)		女性(N=581)		計(N=1131)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
9時間以上	33	6.0%	33	5.7%	66	5.8%
8時間	103	18.7%	84	14.5%	187	16.5%
7時間	157	28.5%	147	25.3%	304	26.9%
6時間	197	35.8%	214	36.8%	411	36.3%
5時間以下	49	8.9%	91	15.7%	140	12.4%
未回答	11	2.0%	12	2.1%	23	2.0%
不詳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	550	100.0%	581	100.0%	1131	100.0%

図 3-6 睡眠時間

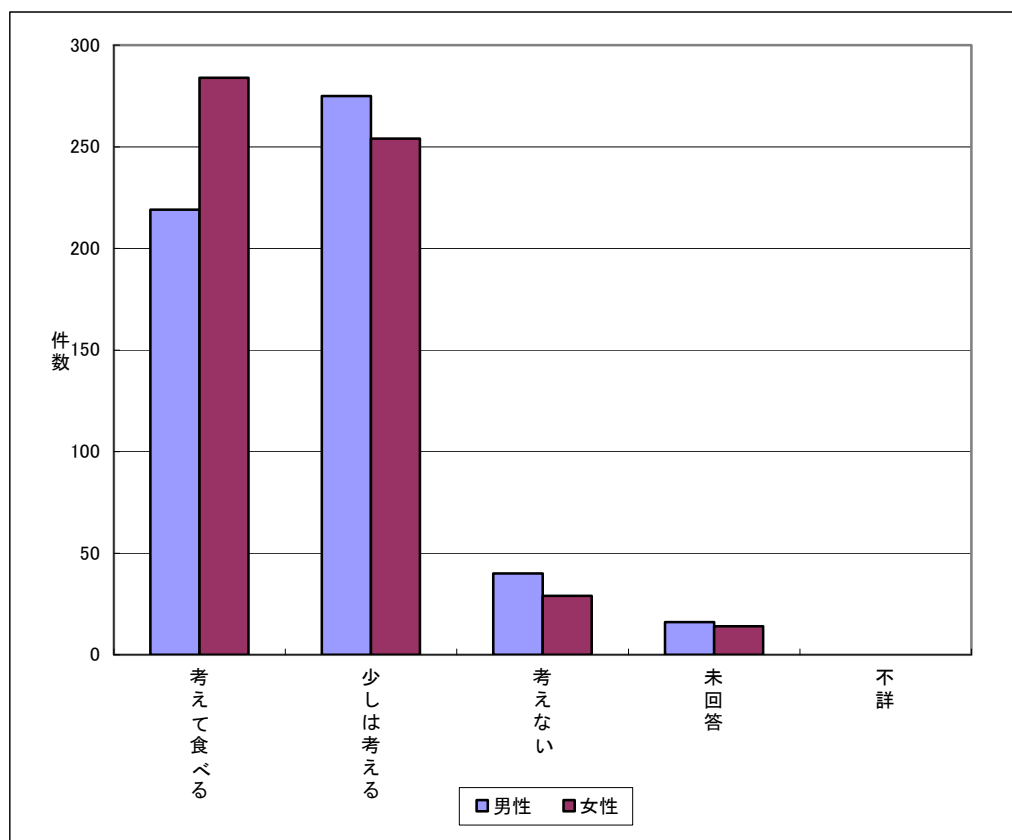


栄養バランスを考えた食事の摂取状況についてみると、「少しは考える」と回答した者が46.8%（男50.0%、女43.7%）、「考えて食べる」と回答した者が44.5%（男39.8%、女48.9%）となっている。91.3%の者が「考えて食べる」「少しは考える」と回答した（表3-7、図3-7）。

表 3-7 栄養バランスへの配慮

	男性(N=550)		女性(N=581)		計(N=1131)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
考えて食べる	219	39.8%	284	48.9%	503	44.5%
少しは考える	275	50.0%	254	43.7%	529	46.8%
考えない	40	7.3%	29	5.0%	69	6.1%
未回答	16	2.9%	14	2.4%	30	2.7%
不詳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	550	100.0%	581	100.0%	1131	100.0%

図 3-7 栄養バランスへの配慮



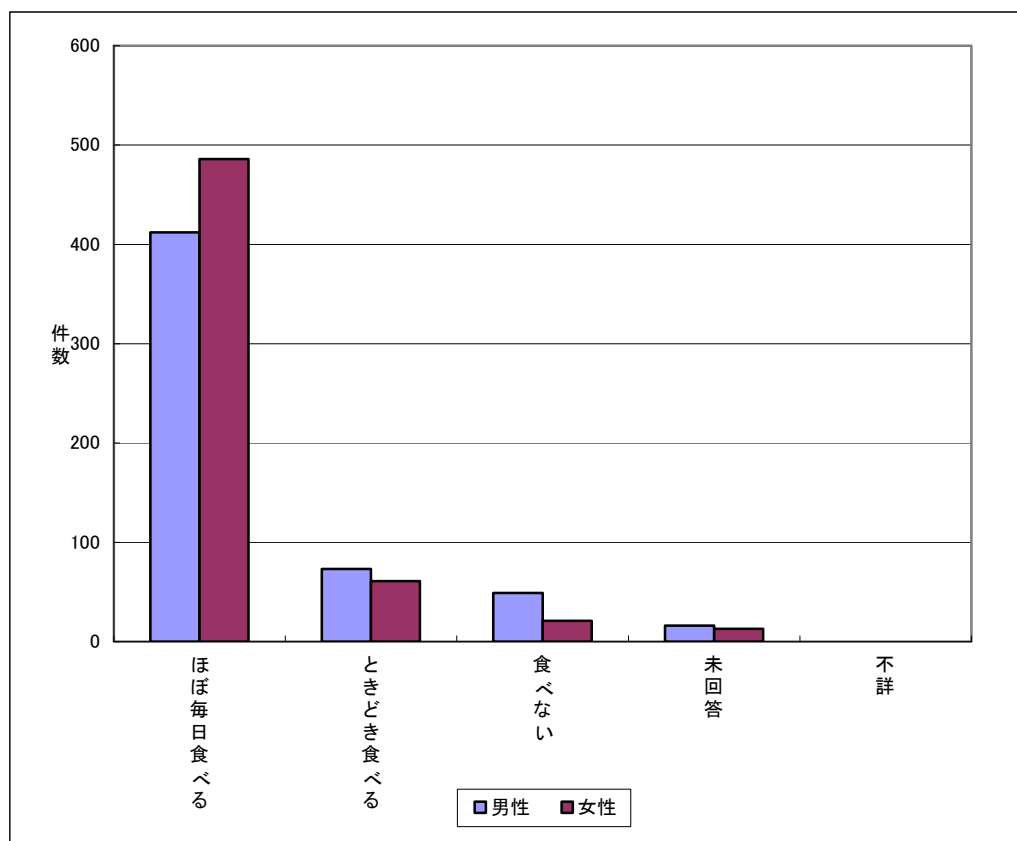


朝食の摂取状況についてみると、「ほぼ毎日食べる」と回答した者が79.4%(男74.9%、女83.6%)、「ときどき食べる」と回答した者が11.8%(男13.3%、女10.5%)となっている(表3-8、図3-8)。

表 3-8 朝食の摂取状況

	男性(N=550)		女性(N=581)		計(N=1131)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
ほぼ毎日食べる	412	74.9%	486	83.6%	898	79.4%
ときどき食べる	73	13.3%	61	10.5%	134	11.8%
食べない	49	8.9%	21	3.6%	70	6.2%
未回答	16	2.9%	13	2.2%	29	2.6%
不詳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	550	100.0%	581	100.0%	1131	100.0%

図 3-8 朝食の摂取状況



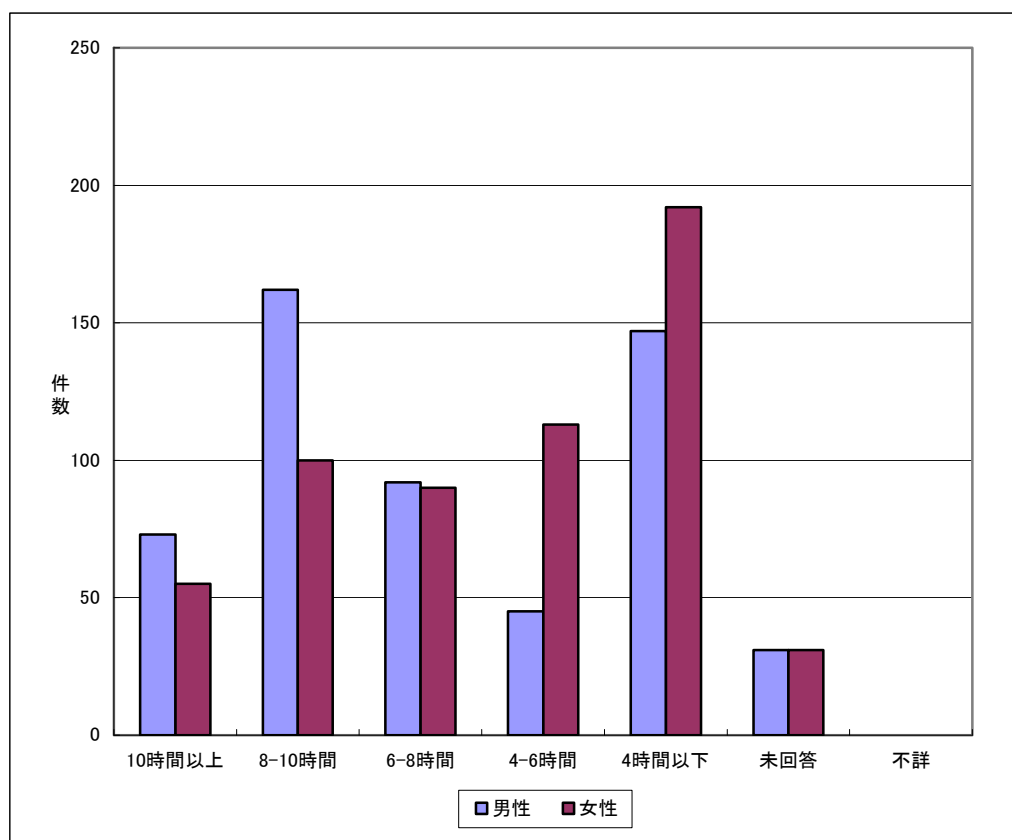
1日の労働時間（家事なども含む）についてみると、男性では「8-10時間」が29.5%と最も多く、女性では「4時間以下」と回答した者が33.0%と最も多かった。全体では「4時間以下」と回答した者が30.0%（男26.7%、女33.0%）と最も多く、次いで、「8-10時間」が23.2%（男29.5%、女17.2%）、「6-8時間」が16.1%（男16.7%、女15.5%）等の順となっている（表3-9、図3-9）。

また、「4時間以下」と回答した者のうち、男性では92.5%、女性では85.4%が60歳以上であった（別表9）。

表 3-9 1日の労働時間（家事なども含む）

	男性(N=550)		女性(N=581)		計(N=1131)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
10時間以上	73	13.3%	55	9.5%	128	11.3%
8-10時間	162	29.5%	100	17.2%	262	23.2%
6-8時間	92	16.7%	90	15.5%	182	16.1%
4-6時間	45	8.2%	113	19.4%	158	14.0%
4時間以下	147	26.7%	192	33.0%	339	30.0%
未回答	31	5.6%	31	5.3%	62	5.5%
不詳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	550	100.0%	581	100.0%	1131	100.0%

図 3-9 1日の労働時間（家事なども含む）

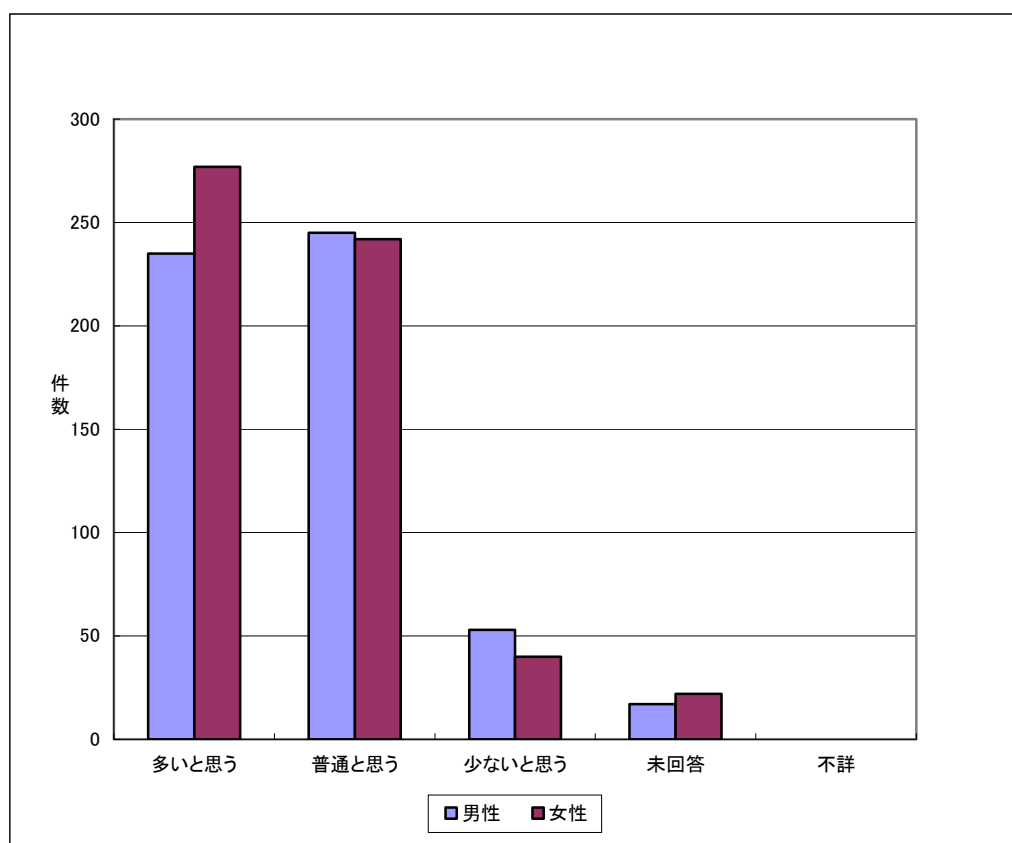


ストレスについてみると、「多いと思う」と回答した者が 45.3% (男 42.7%、女 47.7%)、「普通と思う」と回答した者が 43.1% (男 44.5%、女 41.7%) となっている (表 3-10、図 3-10)。

表 3-10 ストレス

	男性 (N=550)		女性 (N=581)		計 (N=1131)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
多いと思う	235	42.7%	277	47.7%	512	45.3%
普通と思う	245	44.5%	242	41.7%	487	43.1%
少ないと思う	53	9.6%	40	6.9%	93	8.2%
未回答	17	3.1%	22	3.8%	39	3.4%
不詳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	550	100.0%	581	100.0%	1131	100.0%

図 3-10 ストレス



#### 4 健康・悩み・ストレスについて

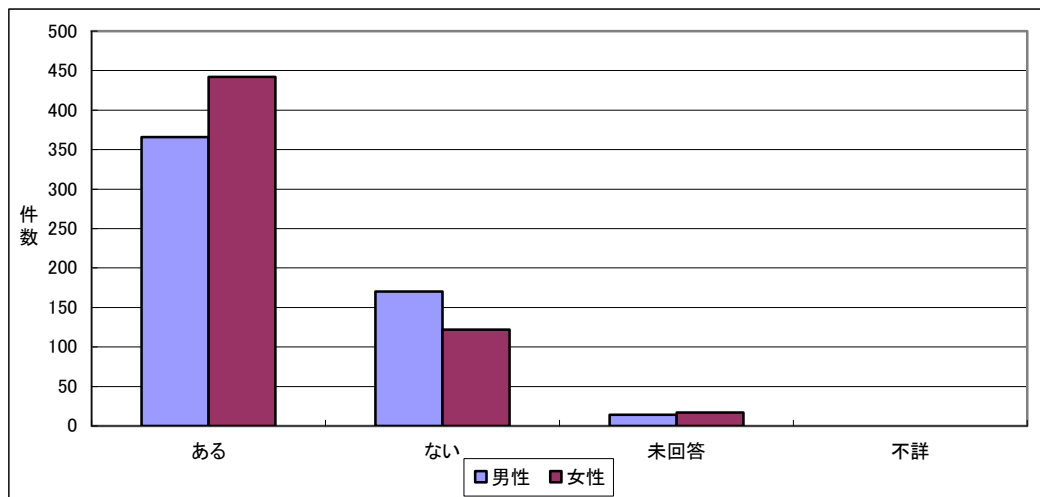
##### (1) 健康上の問題について

健康上の問題による日常生活への影響について、「ある」と回答した者が 808 人 (71.4%) (男 366 人(66.5%)、女 442 人(76.1%)) となっている (表 4-1、図 4-1)。

表 4-1 健康上の問題による日常生活への影響

	男性(N=550)		女性(N=581)		計(N=1131)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
ある	366	66.5%	442	76.1%	808	71.4%
ない	170	30.9%	122	21.0%	292	25.8%
未回答	14	2.5%	17	2.9%	31	2.7%
不詳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	550	100.0%	581	100.0%	1131	100.0%

図 4-1 健康上の問題による日常生活への影響

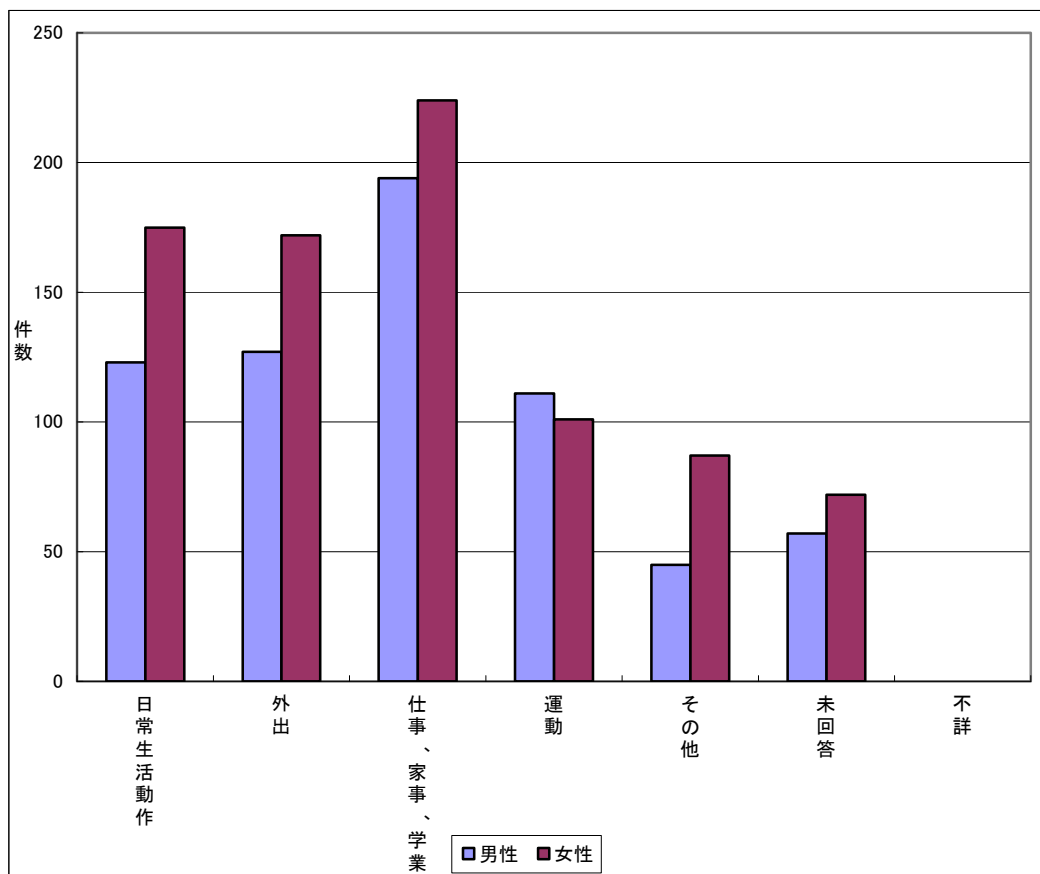


健康上の問題による日常生活への影響が「ある」と回答した 808 人（男 366 人、女 442 人）を対象に、どのような影響があるかを質問したところ、「仕事、家事、学業（時間や作業量などが制限される）」と回答した者が 418 人（51.7%）（男 194 人（53.0%）、女 224 人（50.7%））と最も多く、次いで、「外出（時間や作業量などが制限される）」299 人（37.0%）（男 127 人（34.7%）、女 172 人（38.9%））、「日常生活動作（起床、衣服着脱、食事、入浴など）」298 人（36.9%）（男 123 人（33.6%）、女 175 人（39.6%））等の順であった（表 4-2、図 4-2）。

表 4-2 日常生活への具体的な影響（複数回答）

	男性(N=366)		女性(N=442)		計(N=808)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
日常生活動作（起床、衣服着脱、食事、入浴など）	123	33.6%	175	39.6%	298	36.9%
外出（時間や作業量などが制限される）	127	34.7%	172	38.9%	299	37.0%
仕事、家事、学業（時間や作業量などが制限される）	194	53.0%	224	50.7%	418	51.7%
運動（スポーツを含む）	111	30.3%	101	22.9%	212	26.2%
その他	45	12.3%	87	19.7%	132	16.3%
未回答	57	15.6%	72	16.3%	129	16.0%
不詳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

図 4-2 日常生活への具体的な影響（複数回答）

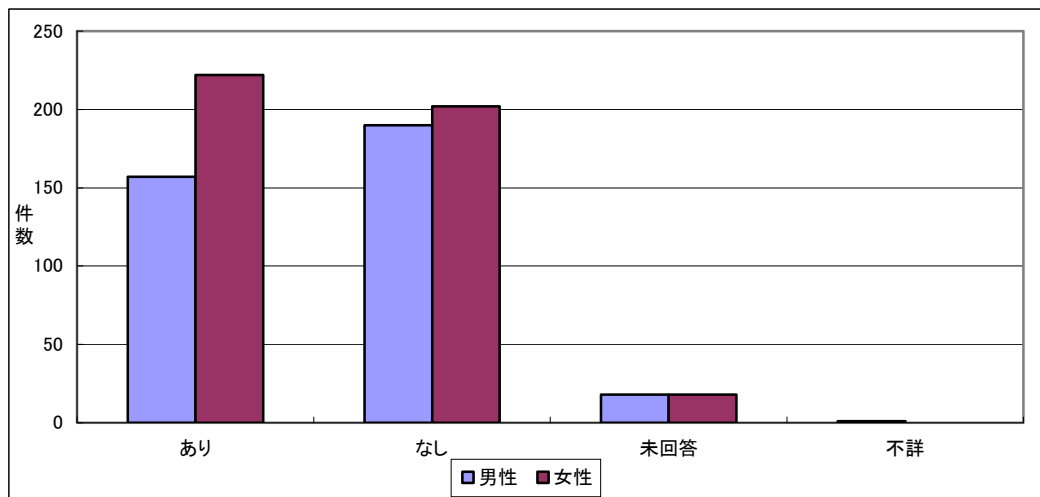


健康上の問題による日常生活への影響が「ある」と回答した 808 人（男 366 人、女 442 人）を対象に、過去 1 か月の間に健康上の問題で床についたり普段の活動ができなかったことの有無を質問したところ、「あり」と回答した者が 379 人（46.9%）（男 157 人（42.9%）、女 222 人（50.2%））であった（表 4-3、図 4-3）。

表 4-3 過去 1 か月の間に健康上の問題で床についたり普段の活動ができなかったこと

	男性(N=366)		女性(N=442)		計(N=808)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
あり	157	42.9%	222	50.2%	379	46.9%
なし	190	51.9%	202	45.7%	392	48.5%
未回答	18	4.9%	18	4.1%	36	4.5%
不詳	1	0.3%	0	0.0%	1	0.1%
計	366	100.0%	442	100.0%	808	100.0%

図 4-3 過去 1 か月の間に健康上の問題で床についたり普段の活動ができなかったこと

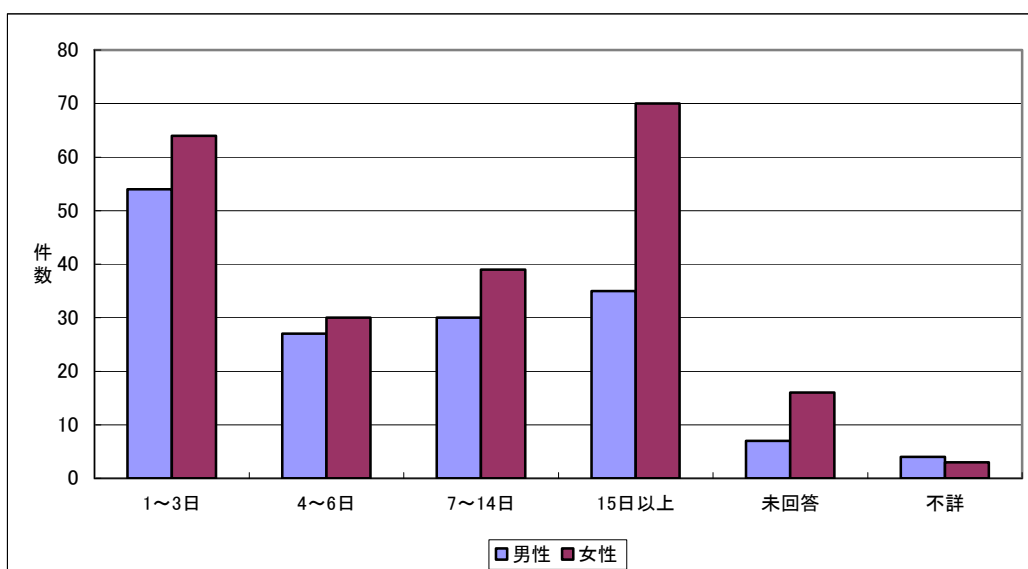


過去1か月の間に健康上の問題で床についたり普段の活動ができなかったことが「ある」と回答した者379人（男157人、女222人）を対象に、活動ができなかった日数を質問したところ、「1～3日」が31.1%（男34.4%、女28.8%）と最も多かった（表4-4、図4-4）。

表 4-4 過去1か月の間に健康上の問題で床についたり普段の活動ができなかった日数

	男性(N=157)		女性(N=222)		計(N=379)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1～3日	54	34.4%	64	28.8%	118	31.1%
4～6日	27	17.2%	30	13.5%	57	15.0%
7～14日	30	19.1%	39	17.6%	69	18.2%
15日以上	35	22.3%	70	31.5%	105	27.7%
未回答	7	4.5%	16	7.2%	23	6.1%
不詳	4	2.5%	3	1.4%	7	1.8%
計	157	100.0%	222	100.0%	379	100.0%

図 4-4 過去1か月の間に健康上の問題で床についたり普段の活動ができなかった日数

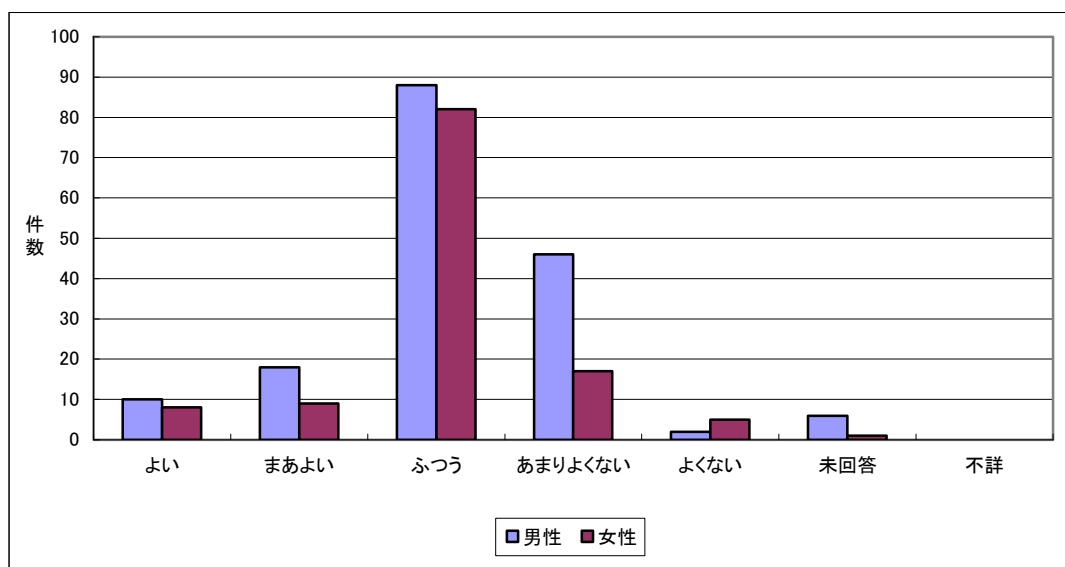


健康上の問題による日常生活への影響について、「ない」と回答した者 292 人（男 170 人、女 122 人）を対象に、現在の健康状態を質問したところ、「ふつう」が 58.2%（男 51.8%、女 67.2%）と最も多かった（表 4-5、図 4-5）。

表 4-5 現在の健康状態

	男性(N=170)		女性(N=122)		計(N=292)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
よい	10	5.9%	8	6.6%	18	6.2%
まあよい	18	10.6%	9	7.4%	27	9.2%
ふつう	88	51.8%	82	67.2%	170	58.2%
あまりよくない	46	27.1%	17	13.9%	63	21.6%
よくない	2	1.2%	5	4.1%	7	2.4%
未回答	6	3.5%	1	0.8%	7	2.4%
不詳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	170	100.0%	122	100.0%	292	100.0%

図 4-5 現在の健康状態





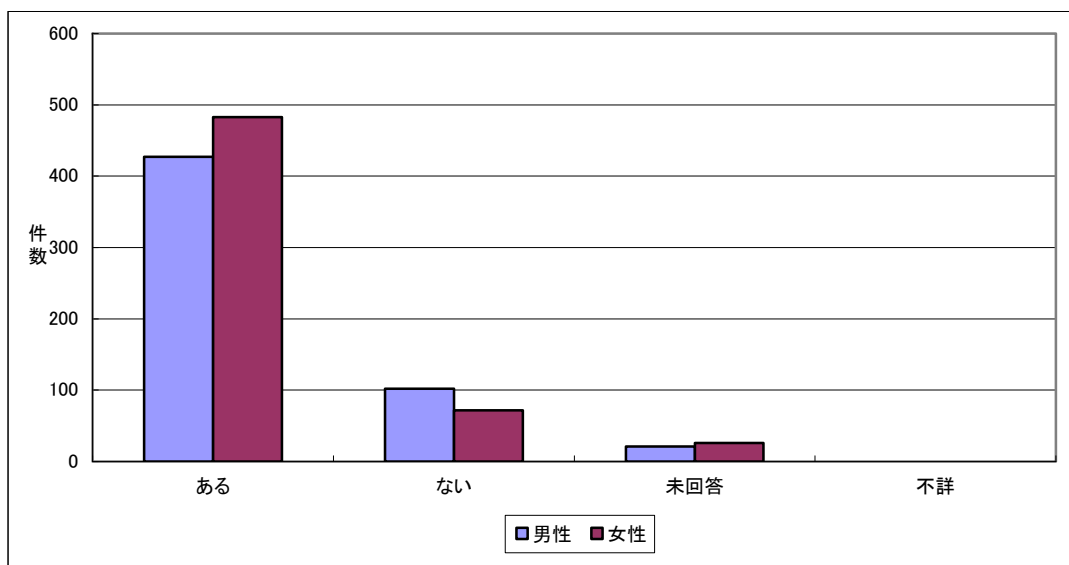
(2) 悩みやストレスについて

日常生活での悩みやストレスが「ある」と回答した者が、910人(80.5%) (男427人(77.6%)、女483人(83.1%))、「ない」と回答した者が174人(15.4%) (男102人(18.5%)、女72人(12.4%))となっている(表4-6、図4-6)。

表 4-6 悩みやストレス

	男性(N=550)		女性(N=581)		計(N=1131)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
ある	427	77.6%	483	83.1%	910	80.5%
ない	102	18.5%	72	12.4%	174	15.4%
未回答	21	3.8%	26	4.5%	47	4.2%
不詳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	550	100.0%	581	100.0%	1131	100.0%

図 4-6 悩みやストレス



日常生活での悩みやストレスが「ある」と回答した910人（男427人、女483人）を対象に、悩みやストレスの原因を質問したところ、「自分の病気や介護」と回答した者が52.6%（男49.4%、女55.5%）と最も多かった（表4-7）。

男女別にみた上位5項目は表4-8、表4-9のとおり。

表4-7 悩みやストレスの原因（複数回答）

	男性(N=427)		女性(N=483)		計(N=910)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
家族との人間関係	80	18.7%	136	28.2%	216	23.7%
家族以外との人間関係	128	30.0%	142	29.4%	270	29.7%
恋愛・性に関すること	21	4.9%	9	1.9%	30	3.3%
結婚	17	4.0%	16	3.3%	33	3.6%
離婚	10	2.3%	9	1.9%	19	2.1%
いじめ・セクシュアル・ハラスメント	3	0.7%	7	1.4%	10	1.1%
生きがいに関すること	85	19.9%	136	28.2%	221	24.3%
自由にできる時間がない	36	8.4%	75	15.5%	111	12.2%
収入・家計・借金等	192	45.0%	183	37.9%	375	41.2%
自分の病気や介護	211	49.4%	268	55.5%	479	52.6%
家族の病気や介護	106	24.8%	152	31.5%	258	28.4%
妊娠・出産	0	0.0%	5	1.0%	5	0.5%
育児	7	1.6%	13	2.7%	20	2.2%
家事	23	5.4%	102	21.1%	125	13.7%
自分の学業・受験・進学	5	1.2%	4	0.8%	9	1.0%
子どもの教育	54	12.6%	54	11.2%	108	11.9%
自分の仕事	201	47.1%	133	27.5%	334	36.7%
家族の仕事	36	8.4%	74	15.3%	110	12.1%
住まいや生活環境（公害、安全及び交通事情を含む）	44	10.3%	49	10.1%	93	10.2%
その他	29	6.8%	36	7.5%	65	7.1%
わからない	2	0.5%	11	2.3%	13	1.4%
未回答	14	3.3%	18	3.7%	32	3.5%
不詳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

表4-8 悩みやストレスの原因の上位5項目（男）

	男性(N=427)	
	件数	割合
自分の病気や介護	211	49.4%
自分の仕事	201	47.1%
収入・家計・借金等	192	45.0%
家族以外との人間関係	128	30.0%
家族の病気や介護	106	24.8%

表4-9 悩みやストレスの原因の上位5項目（女）

	女性(N=483)	
	件数	割合
自分の病気や介護	268	55.5%
収入・家計・借金等	183	37.9%
家族の病気や介護	152	31.5%
家族以外との人間関係	142	29.4%
家族との人間関係	136	28.2%

日常生活での悩みやストレスが「ある」と回答した910人（男427人、女483人）を対象に、悩みやストレスの最も気になる原因（1つ）を質問したところ、「自分の病気や介護」と回答した者が27.4%（男24.8%、女29.6%）と最も多かった（表4-10）。男女別にみた上位5項目は図4-7、図4-8である。

表 4-10 悩みやストレスの最も気になる原因

	男性(N=427)		女性(N=483)		計(N=910)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
家族との人間関係	16	3.7%	28	5.8%	44	4.8%
家族以外との人間関係	21	4.9%	23	4.8%	44	4.8%
恋愛・性に関すること	2	0.5%	0	0.0%	2	0.2%
結婚	2	0.5%	3	0.6%	5	0.5%
離婚	0	0.0%	3	0.6%	3	0.3%
いじめ・セクシュアル・ハラスメント	0	0.0%	1	0.2%	1	0.1%
生きがいにに関すること	7	1.6%	18	3.7%	25	2.7%
自由にできる時間がない	4	0.9%	7	1.4%	11	1.2%
収入・家計・借金等	65	15.2%	52	10.8%	117	12.9%
自分の病気や介護	106	24.8%	143	29.6%	249	27.4%
家族の病気や介護	26	6.1%	49	10.1%	75	8.2%
妊娠・出産	0	0.0%	1	0.2%	1	0.1%
育児	0	0.0%	3	0.6%	3	0.3%
家事	2	0.5%	9	1.9%	11	1.2%
自分の学業・受験・進学	1	0.2%	0	0.0%	1	0.1%
子どもの教育	8	1.9%	7	1.4%	15	1.6%
自分の仕事	76	17.8%	20	4.1%	96	10.5%
家族の仕事	1	0.2%	7	1.4%	8	0.9%
住まいや生活環境（公害、安全及び交通事情を含む）	4	0.9%	4	0.8%	8	0.9%
その他	14	3.3%	22	4.6%	36	4.0%
わからない	0	0.0%	4	0.8%	4	0.4%
未回答	65	15.2%	69	14.3%	134	14.7%
不詳	7	1.6%	10	2.1%	17	1.9%
計	427	100.0%	483	100.0%	910	100.0%

図 4-7 悩みやストレスの最も気になる原因の上位 5 項目 (男)

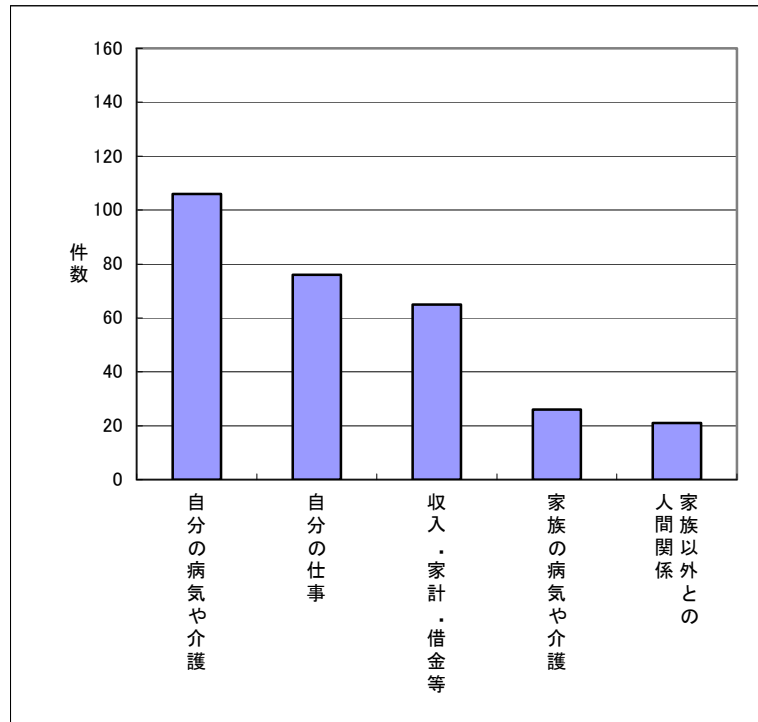
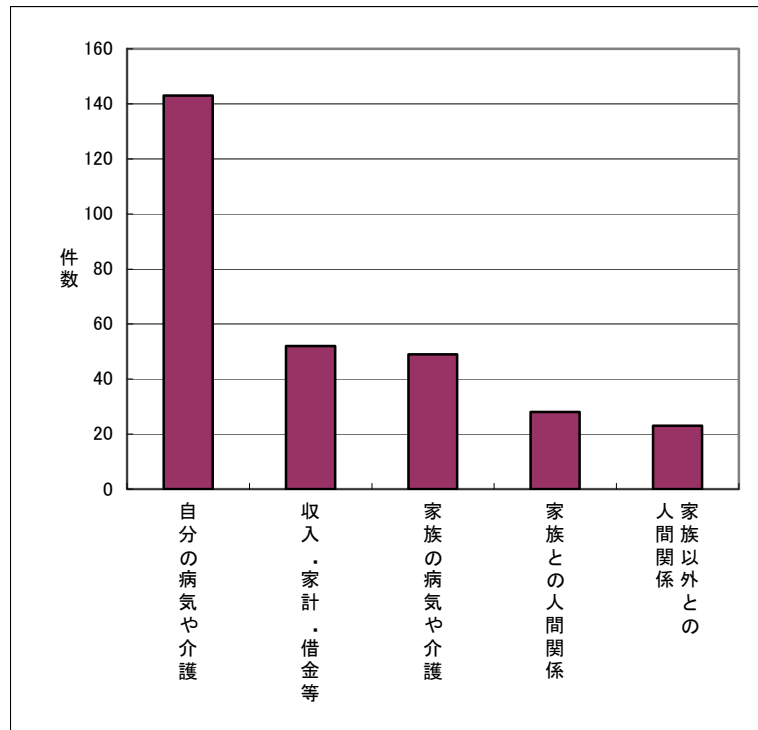


図 4-8 悩みやストレスの最も気になる原因の上位 5 項目 (女)



日常生活での悩みやストレスが「ある」と回答した910人（男427人、女483人）に、悩みやストレスを相談する相手について質問したところ、「家族に相談している」と回答した者が57.8%（男53.2%、女61.9%）と最も多く、次いで、「友人・知人に相談している」34.2%（男27.4%、女40.2%）、「病院・診療所の医師に相談している」25.7%（男24.6%、女26.7%）等の順となった（表4-11）。

表 4-1 1 悩みやストレスの相談先（複数回答）

	男性(N=427)		女性(N=483)		計(N=910)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
家族に相談している	227	53.2%	299	61.9%	526	57.8%
友人・知人に相談している	117	27.4%	194	40.2%	311	34.2%
職場の上司、学校の先生に相談している	21	4.9%	13	2.7%	34	3.7%
公的な機関の相談窓口を利用している	20	4.7%	24	5.0%	44	4.8%
民間の相談機関の相談窓口を利用している	5	1.2%	10	2.1%	15	1.6%
病院・診療所の医師に相談している	105	24.6%	129	26.7%	234	25.7%
テレビ、ラジオ、新聞等の相談コーナーを利用している	3	0.7%	7	1.4%	10	1.1%
上記7つ以外で相談している（職場の相談窓口等）	3	0.7%	5	1.0%	8	0.9%
相談したいが誰にも相談できない	79	18.5%	71	14.7%	150	16.5%
相談したいがどこに相談したらよいかわからない	38	8.9%	30	6.2%	68	7.5%
相談する必要はないので誰にも相談していない	74	17.3%	47	9.7%	121	13.3%
未回答	15	3.5%	19	3.9%	34	3.7%
不詳	0	0.0%	1	0.2%	1	0.1%

最も気になる悩みやストレスの相談先（2つ回答）について、男性、女性それぞれの最も気になる悩みの上位5項目についてまとめたものが、表 4-1 2、表 4-1 3である。

表 4-1 2 最も気になる悩みやストレスの相談先（男）

	家族に相談している	友人・知人に相談している	職場の上司、学校の先生に相談している	公的な機関の相談窓口を利用している	民間の相談窓口を利用している	病院・診療所の医師に相談している	テレビ、ラジオ、新聞等の相談コーナーを利用している	左記7つ以外で相談している	相談したいが誰にも相談できない	相談したいがどこに相談したらよいかわからない	相談する必要はないので誰にも相談していない	未回答	不詳
自分の病気や介護	58	15	0	0	0	40	0	2	13	9	15	10	0
自分の仕事	31	21	9	0	0	8	0	1	10	3	17	7	0
収入・家計・借金等	29	19	2	3	0	9	1	0	14	4	5	5	0
家族の病気や介護	15	3	0	3	0	7	0	0	3	3	2	3	0
家族以外との人間関係	11	8	0	1	0	2	0	0	3	3	2	1	0

表 4-1 3 最も気になる悩みやストレスの相談先（女）

	家族に相談している	友人・知人に相談している	職場の上司、学校の先生に相談している	公的な機関の相談窓口を利用している	民間の相談窓口を利用している	病院・診療所の医師に相談している	テレビ、ラジオ、新聞等の相談コーナーを利用している	左記7つ以外で相談している	相談したいが誰にも相談できない	相談したいがどこに相談したらよいかわからない	相談する必要はないので誰にも相談していない	未回答	不詳
自分の病気や介護	78	36	1	4	1	57	2	0	18	5	5	15	0
収入・家計・借金等	27	19	1	3	1	5	0	0	14	2	4	5	0
家族の病気や介護	27	20	0	3	0	10	0	1	3	3	3	5	1
家族との人間関係	15	14	1	1	1	5	0	0	1	1	4	0	0
家族以外との人間関係	12	12	0	0	0	2	0	0	4	0	0	2	1

5 介護の状況について

病院や診療所への入院、介護保険施設への入所状況についてみると、4.2%（男 3.1%、女 5.3%）の者が入院中若しくは入所中であった（表 5-1）。

なお、30～54歳で入院もしくは入所している者はいなかった。

また、入所者の91.7%が70歳以上の者であった（別表21）。

表 5-1 病院、診療所への入院、または介護保険施設への入所状況

	男性(N=550)		女性(N=581)		計(N=1131)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
はい	17	3.1%	31	5.3%	48	4.2%
いいえ	498	90.5%	528	90.9%	1026	90.7%
未回答	35	6.4%	22	3.8%	57	5.0%
不詳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	550	100.0%	581	100.0%	1131	100.0%

要介護認定の状況についてみると、40歳未満の回答者を除いた1,088人（男 525人、女 563人）のうち、114人（10.5%）（男 31人、女 83人）の者が要介護認定を受けていた（表 5-2）。

表 5-2 要介護認定の状況（40歳未満の回答者は除く）

	男性(N=525)		女性(N=563)		計(N=1088)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
受けている	31	5.9%	83	14.7%	114	10.5%
受けていない	466	88.8%	459	81.5%	925	85.0%
未回答	28	5.3%	21	3.7%	49	4.5%
不詳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	525	100.0%	563	100.0%	1088	100.0%

要介護認定を受けている 114 人の調査日現在の要介護度の分布は、「要支援 1」が 18.4%（男 16.1%、女 19.3%）、「要支援 2」が 17.5%（男 3.2%、女 22.9%）等の順となっている（表 5-3）。

表 5-3 要介護認定を受けている場合の要介護度の状況（調査日現在）

	男性(N=31)		女性(N=83)		計(N=114)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
経過的要介護	3	9.7%	0	0.0%	3	2.6%
要支援1	5	16.1%	16	19.3%	21	18.4%
要支援2	1	3.2%	19	22.9%	20	17.5%
要介護1	6	19.4%	13	15.7%	19	16.7%
要介護2	4	12.9%	10	12.0%	14	12.3%
要介護3	3	9.7%	9	10.8%	12	10.5%
要介護4	2	6.5%	7	8.4%	9	7.9%
要介護5	2	6.5%	3	3.6%	5	4.4%
未回答	5	16.1%	6	7.2%	11	9.6%
不詳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	31	100.0%	83	100.0%	114	100.0%

調査日現在、要介護認定を受けている 114 人に、調査日の 1 年前の要介護度について質問したところ、「要介護 1」が 20.2%（男 22.6%、女 19.3%）、「要支援 1」が 19.3%（男 22.6%、女 18.1%）等の順となっている（表 5-4）。

表 5-4 要介護認定を受けている場合の要介護度の状況（調査日の 1 年前）

	男性(N=31)		女性(N=83)		計(N=114)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
経過的要介護	2	6.5%	0	0.0%	2	1.8%
要支援1	7	22.6%	15	18.1%	22	19.3%
要支援2	0	0.0%	15	18.1%	15	13.2%
要介護1	7	22.6%	16	19.3%	23	20.2%
要介護2	1	3.2%	8	9.6%	9	7.9%
要介護3	4	12.9%	6	7.2%	10	8.8%
要介護4	1	3.2%	3	3.6%	4	3.5%
要介護5	1	3.2%	4	4.8%	5	4.4%
自立と認定された	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
認定を申請中であつた	1	3.2%	0	0.0%	1	0.9%
認定を申請していなかつた	3	9.7%	3	3.6%	6	5.3%
未回答	4	12.9%	13	15.7%	17	14.9%
不詳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	31	100.0%	83	100.0%	114	100.0%



要介護認定を受けている 114 人について、介護が必要となった原因についてみると、男性は「脳血管疾患」が 32.3%と最も多く、女性は「関節疾患」が 43.4%と最も多かった。全体では、「関節疾患」が 36.8%（男 19.4%、女 43.4%）と最も多く、次いで、「認知症」が 23.7%（男 19.4%、女 25.3%）、「骨折・転倒」及び「高齢による衰弱」が 22.8%（男 12.9%、女 26.5%）、22.8%（男 29.0%、女 20.5%）等の順となっている（表 5-5）。男女別に見た上位 6 項目は表 5-6、表 5-7 のとおり。

表 5-5 要介護認定を受けている場合で介護が必要になった原因（複数回答）

	男性(N=31)		女性(N=83)		計(N=114)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
脳血管疾患	10	32.3%	15	18.1%	25	21.9%
心疾患	3	9.7%	13	15.7%	16	14.0%
悪性新生物	3	9.7%	5	6.0%	8	7.0%
呼吸器疾患	6	19.4%	8	9.6%	14	12.3%
関節疾患	6	19.4%	36	43.4%	42	36.8%
認知症	6	19.4%	21	25.3%	27	23.7%
パーキンソン病	1	3.2%	4	4.8%	5	4.4%
糖尿病	2	6.5%	7	8.4%	9	7.9%
視覚・聴覚障害	6	19.4%	7	8.4%	13	11.4%
骨折・転倒	4	12.9%	22	26.5%	26	22.8%
脊髄損傷	2	6.5%	1	1.2%	3	2.6%
高齢による衰弱	9	29.0%	17	20.5%	26	22.8%
その他	4	12.9%	16	19.3%	20	17.5%
わからない	0	0.0%	2	2.4%	2	1.8%
未回答	2	6.5%	7	8.4%	9	7.9%
不詳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

表 5-6 介護が必要になった原因  
上位 6 項目（男）

	男性(N=31)	
	件数	割合
脳血管疾患	10	32.3%
高齢による衰弱	9	29.0%
呼吸器疾患	6	19.4%
関節疾患	6	19.4%
認知症	6	19.4%
視覚・聴覚障害	6	19.4%

表 5-7 介護が必要になった原因  
上位 6 項目（女）

	女性(N=83)	
	件数	割合
関節疾患	36	43.4%
骨折・転倒	22	26.5%
認知症	21	25.3%
高齢による衰弱	17	20.5%
その他	16	19.3%
脳血管疾患	15	18.1%

要介護認定を受けている 114 人について、要介護認定を受けた原因のうち、主たる原因については、男性では「脳血管疾患」と「高齢による衰弱」が 3 名（9.7%）と最も多く、女性では関節疾患が 11 名（13.3%）と最も多かった（表 5-8）。

なお、約半数が未回答であった。

表 5-8 要介護認定を受けている場合で介護が必要になった原因（主たる原因 1 つ選択）

	男性(N=31)		女性(N=83)		計(N=114)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
脳血管疾患	3	9.7%	3	3.6%	6	5.3%
心疾患	0	0.0%	2	2.4%	2	1.8%
悪性新生物	2	6.5%	0	0.0%	2	1.8%
呼吸器疾患	2	6.5%	1	1.2%	3	2.6%
関節疾患	2	6.5%	11	13.3%	13	11.4%
認知症	1	3.2%	9	10.8%	10	8.8%
パーキンソン病	1	3.2%	1	1.2%	2	1.8%
糖尿病	2	6.5%	0	0.0%	2	1.8%
視覚・聴覚障害	1	3.2%	1	1.2%	2	1.8%
骨折・転倒	0	0.0%	3	3.6%	3	2.6%
脊髄損傷	0	0.0%	1	1.2%	1	0.9%
高齢による衰弱	3	9.7%	2	2.4%	5	4.4%
その他	1	3.2%	5	6.0%	6	5.3%
わからない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
未回答	13	41.9%	42	50.6%	55	48.2%
不詳	0	0.0%	2	2.4%	2	1.8%
計	31	100.0%	83	100.0%	114	100.0%

要介護認定を受けていないと回答した者 925 人（男 466 人、女 459 人）を対象に、介助なしで行うことができるものを質問したところ、全ての項目において約 9 割の者が「できる」と回答した（表 5-9）。

表 5-9 要介護認定を受けていない場合で介助なしでできること（複数回答）

	男性(N=466)		女性(N=459)		計(N=925)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
洗顔	428	91.8%	430	93.7%	858	92.8%
口腔清掃	427	91.6%	427	93.0%	854	92.3%
身体の清拭	427	91.6%	427	93.0%	854	92.3%
洗髪	428	91.8%	426	92.8%	854	92.3%
着替	429	92.1%	428	93.2%	857	92.6%
入浴	427	91.6%	428	93.2%	855	92.4%
体位交換・起居	426	91.4%	429	93.5%	855	92.4%
排泄	428	91.8%	429	93.5%	857	92.6%
食事の準備・後始末	417	89.5%	417	90.8%	834	90.2%
食事	430	92.3%	429	93.5%	859	92.9%
服薬	428	91.8%	427	93.0%	855	92.4%
散歩	418	89.7%	408	88.9%	826	89.3%
掃除	418	89.7%	413	90.0%	831	89.8%
洗濯	413	88.6%	418	91.1%	831	89.8%
買い物	414	88.8%	408	88.9%	822	88.9%
日常会話	429	92.1%	425	92.6%	854	92.3%
未回答	36	7.7%	28	6.1%	64	6.9%
不詳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

※40歳未満の回答者は除く

6 これまでにかかったことのある病気等について

これまでにかかったことのある病気等についてカテゴリ一別でみると、「骨・関節の病気」に「あり」と回答した者が85.1%（男81.8%、女88.1%）と男女ともに最も多く、次いで、「皮膚・爪の病気」が82.5%（男81.3%、女83.6%）、「その他の病気」が80.2%（男79.1%、女81.2%）、「口の中の病気」が78.4%（男78.2%、女78.7%）、「眼の病気」が74.4%（男72.0%、女76.6%）、「食道・胃・腸・肛門の病気」が74.1%（男71.6%、女76.4%）等の順となっている（表6-1、図6-1、図6-2）。

表6-1 これまでにかかったことのある病気（複数回答）

	男性(N=550)		女性(N=581)		計(N=1131)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
がん	56	10.2%	58	10.0%	114	10.1%
脳・精神・神経の病気	271	49.3%	384	66.1%	655	57.9%
自律神経系の病気	209	38.0%	321	55.2%	530	46.9%
眼の病気	396	72.0%	445	76.6%	841	74.4%
口の中の病気	430	78.2%	457	78.7%	887	78.4%
耳・鼻の病気	340	61.8%	393	67.6%	733	64.8%
甲状腺の病気	14	2.5%	65	11.2%	79	7.0%
のど・気管支・肺の病気	389	70.7%	398	68.5%	787	69.6%
心臓の病気	205	37.3%	239	41.1%	444	39.3%
高血圧や血管の病気	234	42.5%	314	54.0%	548	48.5%
肝臓・胆のう・脾臓の病気	136	24.7%	136	23.4%	272	24.0%
すい臓の病気	79	14.4%	74	12.7%	153	13.5%
腎臓・膀胱の病気	155	28.2%	239	41.1%	394	34.8%
食道・胃・腸・肛門の病気	394	71.6%	444	76.4%	838	74.1%
血液・リンパの病気	120	21.8%	228	39.2%	348	30.8%
子宮・卵巣・婦人科系の病気			272	46.8%	272	24.0%
不妊症			24	4.1%	24	2.1%
前立腺・男性機能に関する病気	90	16.4%			90	8.0%
骨・関節の病気	450	81.8%	512	88.1%	962	85.1%
皮膚・爪の病気	447	81.3%	486	83.6%	933	82.5%
アレルギー疾患	243	44.2%	320	55.1%	563	49.8%
膠原病	13	2.4%	41	7.1%	54	4.8%
その他の病気	435	79.1%	472	81.2%	907	80.2%

※本表では”妊娠”は除外しています。

図 6-1 これまでにかかったことのある病気 (男)

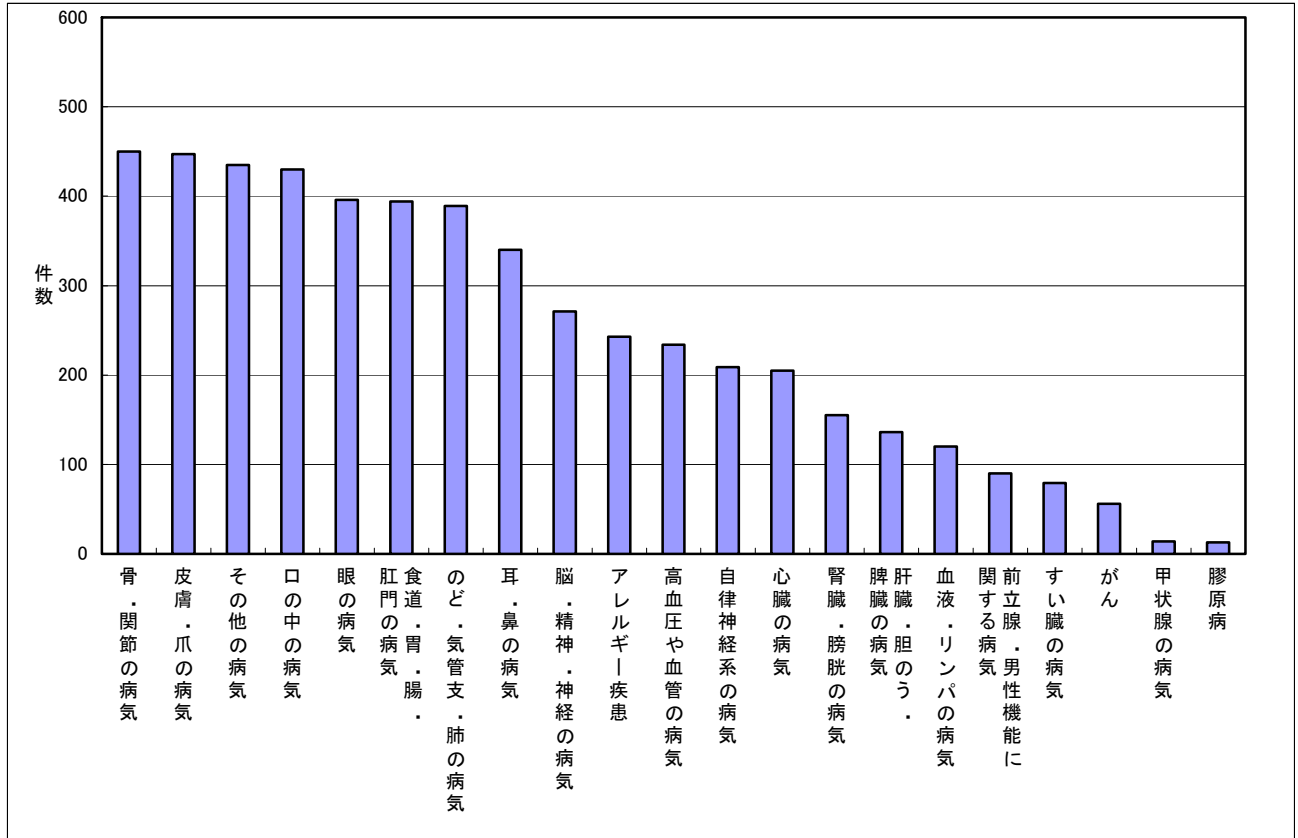
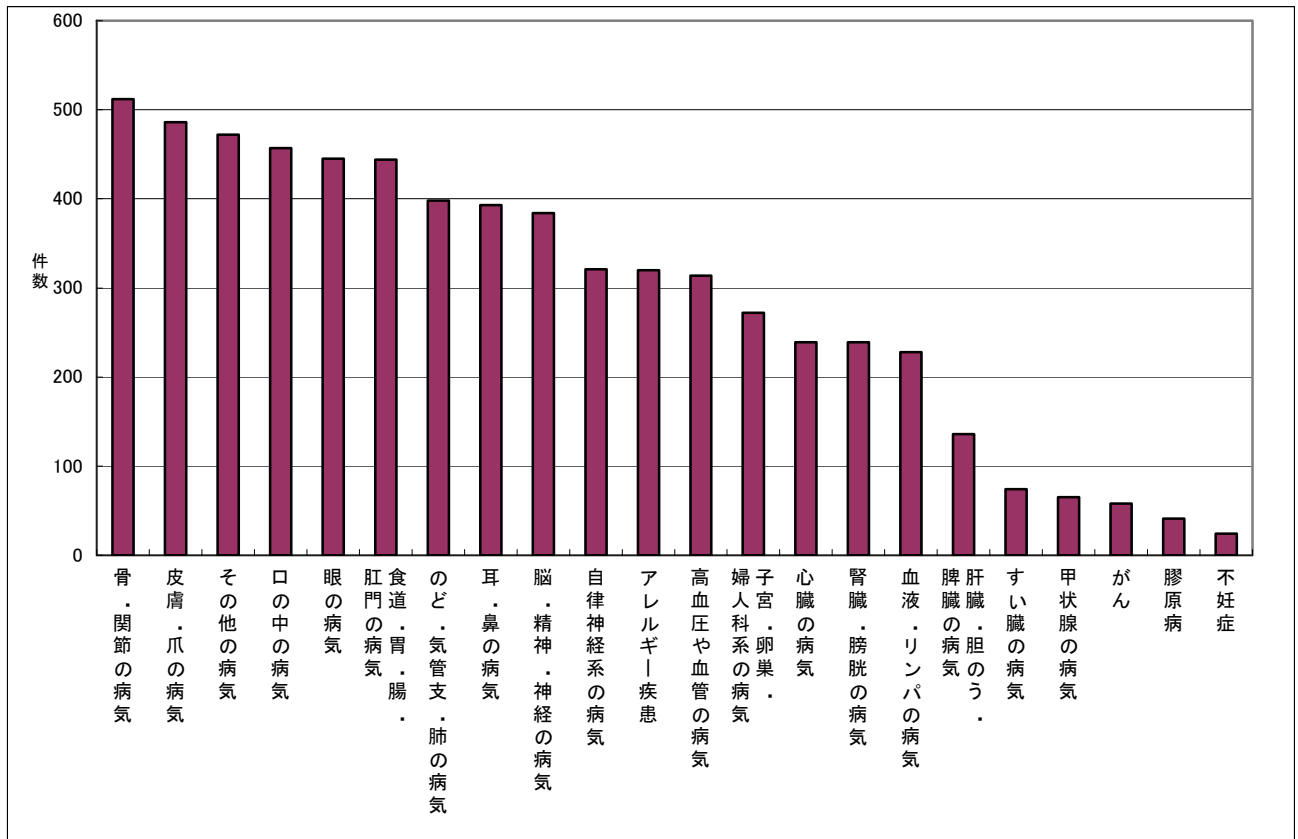


図 6-2 これまでにかかったことのある病気 (女)



具体的な症状別にみると、「腰痛」が 69.4%と最も多く、次いで、「全身倦怠感（体がだるい）」59.7%、「肩こり」58.4%、「手足のしびれ」56.8%、「皮膚の瘙痒（かゆみ）」47.8%、「眼脂過多（めやに）」43.9%、「虫歯になりやすい」43.9%、「せき」42.6%、「たん」42.5%等の順となっている（表 6-2）。また、男女別の上位 20 項目を抽出したものが、図 6-3（男）、図 6-4（女）である。なお、カテゴリ一別の病名、症状等の集計は表 6-3 から表 6-49 のとおりであった。

年齢階級別にみた結果は別表 28 のとおりであるが、腰痛が全ての年代を通じて最も多かった。

表 6-2 具体的な症状の上位 20 項目

カテゴリー	症状	男性(N=550)		女性(N=581)		計(N=1131)	
		件数	割合	件数	割合	件数	割合
骨・関節の病気	腰痛	374	68.0%	411	70.7%	785	69.4%
その他の病気	全身倦怠感(体がだるい)	322	58.5%	353	60.8%	675	59.7%
骨・関節の病気	肩こり	274	49.8%	386	66.4%	660	58.4%
その他の病気	手足のしびれ	294	53.5%	348	59.9%	642	56.8%
皮膚・爪の病気	皮膚の瘙痒(かゆみ)	248	45.1%	293	50.4%	541	47.8%
眼の病気	眼脂過多(めやに)	237	43.1%	260	44.8%	497	43.9%
口の中の病気	虫歯になりやすい	234	42.5%	263	45.3%	497	43.9%
のど・気管支・肺の病気	せき	240	43.6%	242	41.7%	482	42.6%
のど・気管支・肺の病気	たん	254	46.2%	227	39.1%	481	42.5%
骨・関節の病気	関節痛	194	35.3%	272	46.8%	466	41.2%
食道・胃・腸・肛門の病気	便秘	160	29.1%	296	50.9%	456	40.3%
のど・気管支・肺の病気	風邪を引きやすい	201	36.5%	246	42.3%	447	39.5%
皮膚・爪の病気	湿疹がでやすい	190	34.5%	256	44.1%	446	39.4%
脳・精神・神経の病気	頭痛	159	28.9%	275	47.3%	434	38.4%
口の中の病気	歯周病(歯槽膿漏)	224	40.7%	210	36.1%	434	38.4%
皮膚・爪の病気	爪の変形	208	37.8%	219	37.7%	427	37.8%
口の中の病気	口内炎になりやすい	170	30.9%	238	41.0%	408	36.1%
その他の病気	体がつる	172	31.3%	232	39.9%	404	35.7%
皮膚・爪の病気	ざ瘡(にきび)	189	34.5%	213	36.7%	402	35.6%
食道・胃・腸・肛門の病気	下痢	203	36.9%	185	31.8%	388	34.3%

図 6-3 具体的な症状の上位20項目 (男)

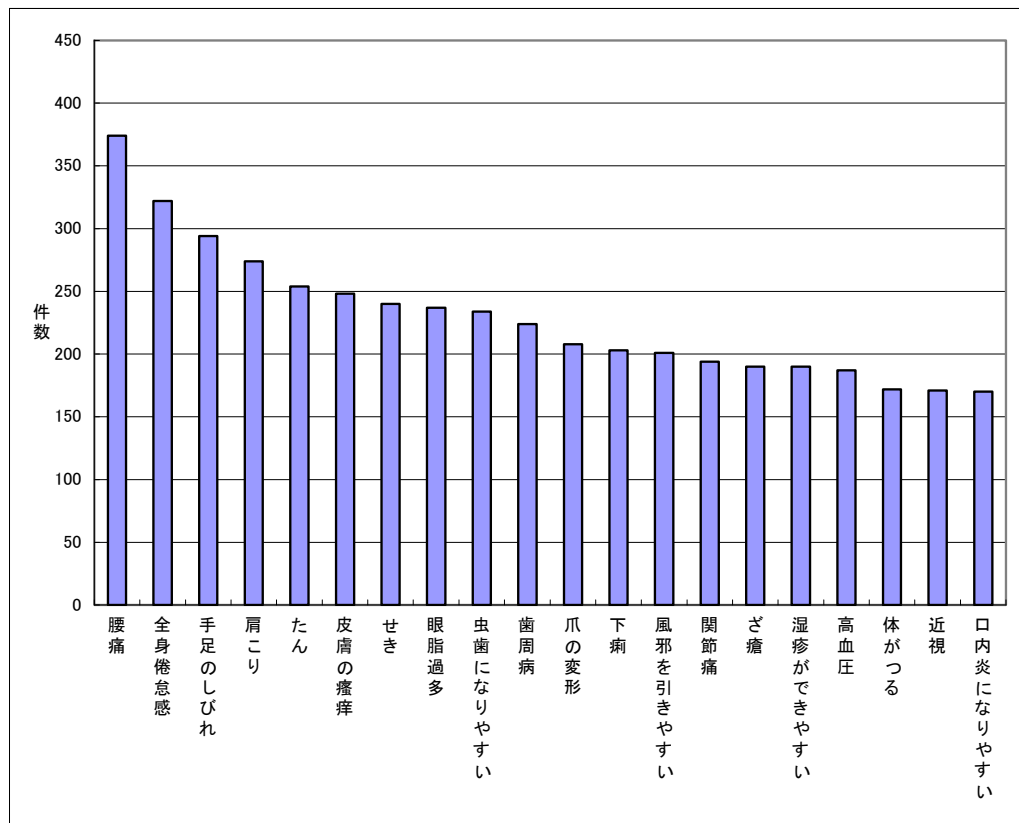
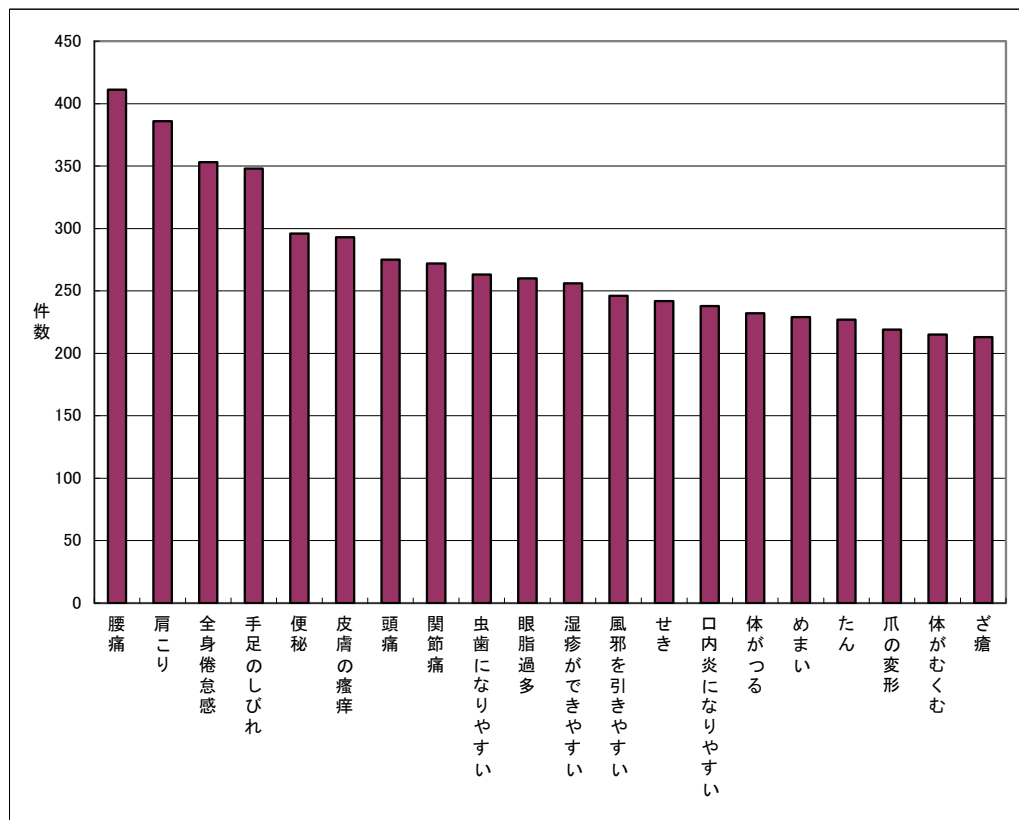


図 6-4 具体的な症状の上位20項目 (女)



(1) がんについて

「がん」にかかったことがあると回答した 114 人（男 56 人、女 58 人）に、その部位を質問したところ、「大腸がん」と回答した者が 1.8%（男 2.4%、女 1.2%）と最も多く、次いで、「胃がん」が 1.7%（男 2.5%、女 0.9%）、「肺がん」が 1.2%（男 1.6%、女 0.9%）等の順となっている（表 6-3）。また、男女別の上位 6 項目を抽出したものが、表 6-4、表 6-5 である。

なお、本人等が調査票に記載したものをそのまま集計したものであり、悪性腫瘍以外が含まれている可能性がある。

表 6-3 「がん」の部位（複数回答）

	男性(N=550)		女性(N=581)		計(N=1131)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
大腸がん	13	2.4%	7	1.2%	20	1.8%
胃がん	14	2.5%	5	0.9%	19	1.7%
肺がん	9	1.6%	5	0.9%	14	1.2%
肝臓がん	7	1.3%	6	1.0%	13	1.1%
乳がん	0	0.0%	13	2.2%	13	1.1%
前立腺がん	12	2.2%	0	0.0%	12	1.1%
子宮がん	0	0.0%	9	1.5%	9	0.8%
膀胱がん	8	1.5%	1	0.2%	9	0.8%
甲状腺がん	2	0.4%	6	1.0%	8	0.7%
皮膚がん	1	0.2%	7	1.2%	8	0.7%
直腸がん	6	1.1%	1	0.2%	7	0.6%
すい臓がん	3	0.5%	3	0.5%	6	0.5%
腎がん	3	0.5%	1	0.2%	4	0.4%
食道がん	2	0.4%	0	0.0%	2	0.2%
胆のうがん	2	0.4%	0	0.0%	2	0.2%
卵巣がん	0	0.0%	2	0.3%	2	0.2%
扁桃腺がん	2	0.4%	0	0.0%	2	0.2%
肝胆がん	0	0.0%	1	0.2%	1	0.1%
歯根嚢胞腫	1	0.2%	0	0.0%	1	0.1%
線維腫瘍	0	0.0%	1	0.2%	1	0.1%
副腎腫瘍	1	0.2%	0	0.0%	1	0.1%
腹膜悪性中皮腫	1	0.2%	0	0.0%	1	0.1%

本人等が調査票に記載したものをそのまま集計したものであり、悪性腫瘍以外が含まれている可能性がある。

※計を降順に並べ替えた。

表 6-4 「がん」の上位 6 部位（男）

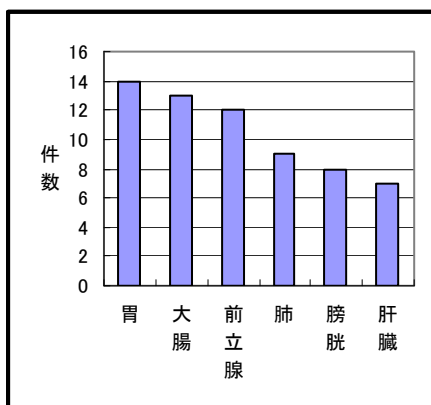


表 6-5 「がん」の上位 6 部位（女）

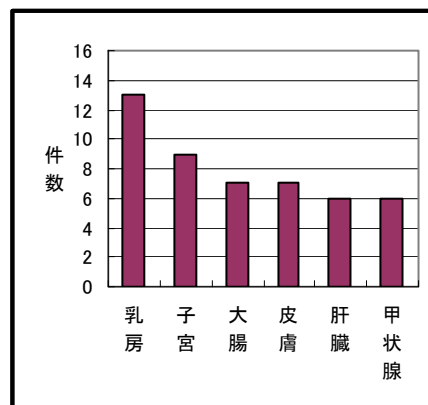




表 6-6 「がん」の油症発症前後における罹患状況

	発症前		発症後		不明		計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
大腸がん	0	0	12	6	1	1	13	7
胃がん	0	0	12	5	2	0	14	5
肺がん	0	0	9	5	0	0	9	5
肝臓がん	0	0	6	4	1	2	7	6
乳がん	0	0	0	10	0	3	0	13
前立腺がん	0	0	8	0	4	0	12	0
子宮がん	0	1	0	8	0	0	0	9
膀胱がん	0	0	7	1	1	0	8	1
甲状腺がん	0	0	2	4	0	2	2	6
皮膚がん	0	0	1	4	0	3	1	7
直腸がん	0	0	6	1	0	0	6	1
すい臓がん	0	0	2	2	1	1	3	3
腎がん	0	1	3	0	0	0	3	1
食道がん	0	0	2	0	0	0	2	0
胆のうがん	0	0	2	0	0	0	2	0
卵巣がん	0	0	0	2	0	0	0	2
扁桃腺がん	0	0	2	0	0	0	2	0
肝胆がん	0	0	0	1	0	0	0	1
歯根嚢胞腫	0	0	1	0	0	0	1	0
線維腫瘍	0	0	0	1	0	0	0	1
副腎腫瘍	0	0	1	0	0	0	1	0
腹膜悪性中皮腫	0	0	1	0	0	0	1	0

※計を降順に並べ替えた。

(2) 脳・精神・神経の病気について

「脳・精神・神経の病気」にかかったことがあると回答した 655 人（男 271 人、女 384 人）に、その症状を質問したところ、男女ともに「頭痛」と回答した者が最も多く 38.4%（男 28.9%、女 47.3%）であった。次いで、「もの忘れ」が 27.8%（男 23.5%、女 31.8%）、「神経痛」が 17.9%（男 14.7%、女 21.0%）等の順となっている。

表 6-7 「脳・精神・神経の病気」の罹患状況（複数回答）

	男性(N=550)		女性(N=581)		計(N=1131)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
脳腫瘍	2	0.4%	4	0.7%	6	0.5%
脳卒中	6	1.1%	1	0.2%	7	0.6%
脳梗塞	30	5.5%	29	5.0%	59	5.2%
頭痛	159	28.9%	275	47.3%	434	38.4%
頭重	66	12.0%	131	22.5%	197	17.4%
神経痛	81	14.7%	122	21.0%	203	17.9%
知的障害	2	0.4%	6	1.0%	8	0.7%
躁うつ病	26	4.7%	57	9.8%	83	7.3%
統合失調症	7	1.3%	9	1.5%	16	1.4%
幻覚	11	2.0%	17	2.9%	28	2.5%
認知症	12	2.2%	28	4.8%	40	3.5%
もの忘れ	129	23.5%	185	31.8%	314	27.8%
かっとなりやすい・短気	96	17.5%	83	14.3%	179	15.8%
その他	1	0.2%	1	0.2%	2	0.2%

図 6-5 「脳・精神・神経の病気」  
上位 5 項目（男）

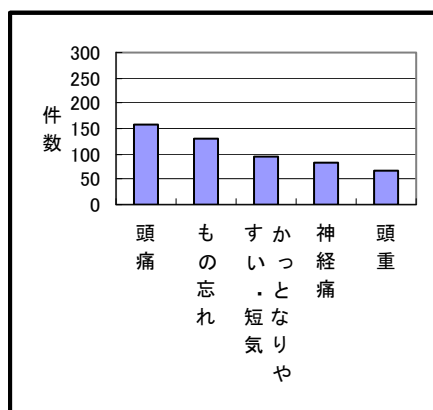


図 6-6 「脳・精神・神経の病気」  
上位 5 項目（女）

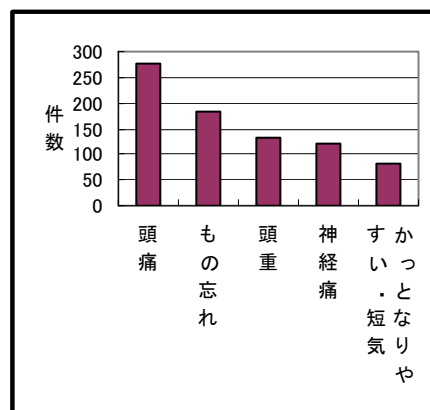


表 6-8 「脳・精神・神経の病気」の油症発症前後における罹患状況

	発症前		発症後		不明		計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
脳腫瘍	0	0	2	4	0	0	2	4
脳卒中	0	0	6	1	0	0	6	1
脳梗塞	0	0	28	28	2	1	30	29
頭痛	1	2	146	254	12	19	159	275
頭重	0	0	59	121	7	10	66	131
神経痛	0	2	74	106	7	14	81	122
知的障害	0	1	2	3	0	2	2	6
躁うつ病	0	0	25	51	1	6	26	57
統合失調症	0	0	7	9	0	0	7	9
幻覚	0	0	11	17	0	0	11	17
認知症	0	0	9	26	3	2	12	28
もの忘れ	0	1	117	160	12	24	129	185
かっとなりやすい・短気	6	1	79	72	11	10	96	83
その他	0	0	0	1	1	0	1	1

(3) 自律神経系の病気について

「自律神経系の病気」にかかったことがあると回答した530人（男209人、女321人）に、その症状を質問したところ、男女ともに「不眠」と回答した者が最も多く26.0%（男18.9%、女32.7%）であった。次いで、「多汗症」が16.4%（男13.6%、女18.9%）、「自律神経失調症」が16.1%（男8.2%、女23.6%）等の順となっている。

表 6-9 「自律神経系の病気」の罹患状況（複数回答）

	男性(N=550)		女性(N=581)		計(N=1131)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
起立性低血圧	34	6.2%	59	10.2%	93	8.2%
過敏性腸症候群	32	5.8%	38	6.5%	70	6.2%
多汗症	75	13.6%	110	18.9%	185	16.4%
汗が出にくい	24	4.4%	40	6.9%	64	5.7%
不眠	104	18.9%	190	32.7%	294	26.0%
不安神経症	34	6.2%	68	11.7%	102	9.0%
自律神経失調症	45	8.2%	137	23.6%	182	16.1%

図 6-7 「自律神経系の病気」  
上位5項目（男）

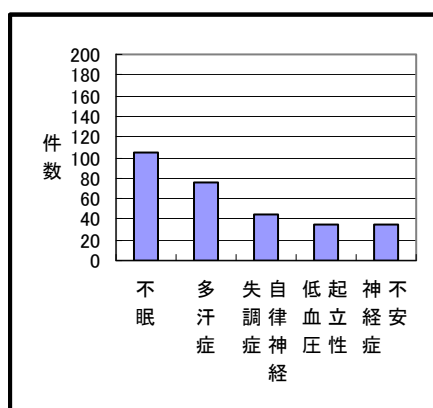


図 6-8 「自律神経系の病気」  
上位5項目（女）

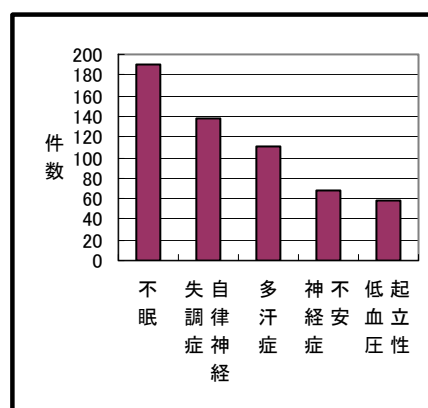


表 6-10 「自律神経系の病気」の油症発症前後における罹患状況

	発症前		発症後		不明		計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
起立性低血圧	0	3	33	53	1	3	34	59
過敏性腸症候群	0	2	32	32	0	4	32	38
多汗症	2	4	67	91	6	15	75	110
汗が出にくい	3	1	19	37	2	2	24	40
不眠	0	2	90	164	14	24	104	190
不安神経症	0	0	30	60	4	8	34	68
自律神経失調症	1	3	41	120	3	14	45	137

(4) 眼の病気について

「眼の病気」にかかったことがあると回答した 841 人（男 396 人、女 445 人）に、その症状を質問したところ、男女ともに「眼脂過多（めやに）」と回答した者が最も多く 43.9%（男 43.1%、女 44.8%）であった。次いで「近視」が 28.0%（男 31.1%、女 25.1%）、「乱視」が 27.6%（男 28.4%、女 26.9%）等の順となっている。

表 6-11 「眼の病気」の罹患状況（複数回答）

	男性(N=550)		女性(N=581)		計(N=1131)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
眼脂過多(めやに)	237	43.1%	260	44.8%	497	43.9%
眼瞼腺からのチーズ状分泌物	58	10.5%	83	14.3%	141	12.5%
結膜の色素沈着	25	4.5%	37	6.4%	62	5.5%
白内障	104	18.9%	162	27.9%	266	23.5%
緑内障	17	3.1%	27	4.6%	44	3.9%
近視	171	31.1%	146	25.1%	317	28.0%
遠視	64	11.6%	97	16.7%	161	14.2%
乱視	156	28.4%	156	26.9%	312	27.6%
弱視	19	3.5%	26	4.5%	45	4.0%
その他	1	0.2%	0	0.0%	1	0.1%

図 6-9 「眼の病気」上位5項目（男）

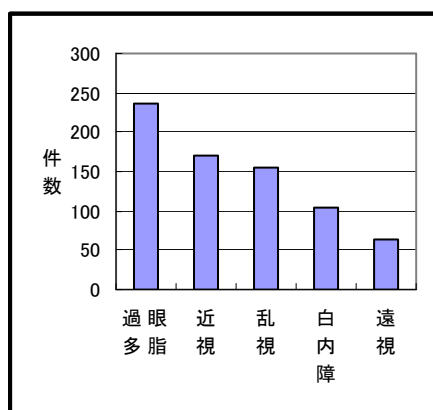


図 6-10 「眼の病気」上位5項目（女）

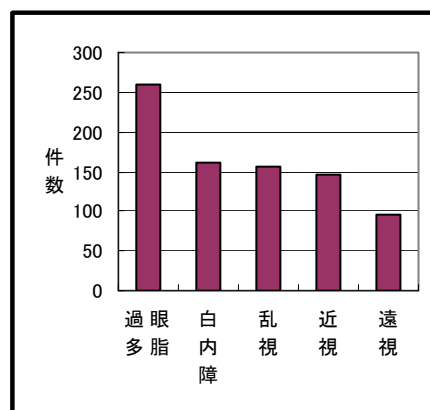


表 6-12 「眼の病気」の油症発症前後における罹患状況

	発症前		発症後		不明		計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
眼脂過多(めやに)	1	3	215	239	21	18	237	260
眼瞼腺からのチーズ状分泌物	0	2	53	74	5	7	58	83
結膜の色素沈着	0	0	22	31	3	6	25	37
白内障	1	1	95	144	8	17	104	162
緑内障	0	0	14	25	3	2	17	27
近視	22	24	138	103	11	19	171	146
遠視	1	0	59	76	4	21	64	97
乱視	7	7	142	125	7	24	156	156
弱視	0	2	18	21	1	3	19	26
その他	1	0	0	0	0	0	1	0

(5) 口の中の病気について

「口の中の病気」にかかったことがあると回答した887人（男430人、女457人）に、その症状を質問したところ、男女ともに「虫歯になりやすい」と回答した者が最も多く43.9%（男42.5%、女45.3%）であった。次いで、「歯周病（歯槽膿漏）」が38.4%（男40.7%、女36.1%）、「口内炎になりやすい」が36.1%（男30.9%、女41.0%）等の順となっている。

表 6-13 「口の中の病気」の罹患状況（複数回答）

	男性(N=550)		女性(N=581)		計(N=1131)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
舌がん	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
歯牙形成不全	15	2.7%	9	1.5%	24	2.1%
歯周病(歯槽膿漏)	224	40.7%	210	36.1%	434	38.4%
歯肉炎	100	18.2%	116	20.0%	216	19.1%
顎関節症	19	3.5%	40	6.9%	59	5.2%
味覚異常	17	3.1%	29	5.0%	46	4.1%
歯肉の色素沈着(歯茎が黒い)	99	18.0%	128	22.0%	227	20.1%
口内炎になりやすい	170	30.9%	238	41.0%	408	36.1%
虫歯になりやすい	234	42.5%	263	45.3%	497	43.9%
歯の知覚過敏(歯がしみる)	163	29.6%	201	34.6%	364	32.2%

図 6-11 「口の中の病気」  
上位5項目（男）

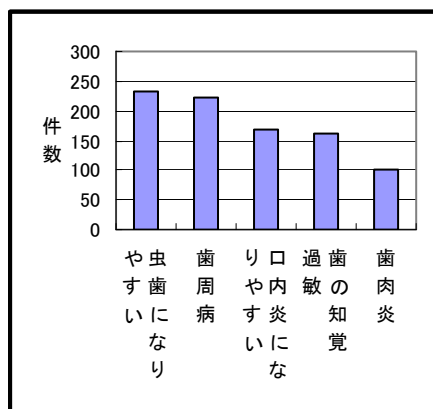


図 6-12 「口の中の病気」  
上位5項目（女）

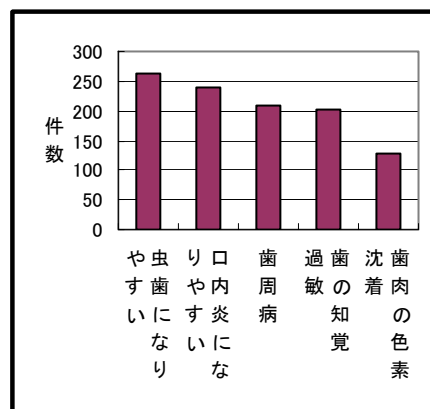


表 6-14 「口の中の病気」の油症発症前後における罹患状況

	発症前		発症後		不明		計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
舌がん	0	0	0	0	0	0	0	0
歯牙形成不全	0	1	13	5	2	3	15	9
歯周病(歯槽膿漏)	4	0	200	183	20	27	224	210
歯肉炎	1	1	87	103	12	12	100	116
顎関節症	0	0	19	36	0	4	19	40
味覚異常	0	0	17	26	0	3	17	29
歯肉の色素沈着(歯茎が黒い)	2	1	86	118	11	9	99	128
口内炎になりやすい	1	5	158	213	11	20	170	238
虫歯になりやすい	9	12	206	222	19	29	234	263
歯の知覚過敏(歯がしみる)	6	1	126	162	31	38	163	201

(6) 耳・鼻の病気について

「耳・鼻の病気」にかかったことがあると回答した733人（男340人、女393人）に、その症状を質問したところ、男女ともに「めまい」と回答した者が最も多く32.4%（男24.9%、女39.4%）であった。次いで、「鼻炎を起こしやすい」が24.1%（男22.2%、女26.0%）、「難聴」が19.7%（男20.4%、女19.1%）等の順となっている。

表 6-15 「耳・鼻の病気」の罹患状況（複数回答）

	男性(N=550)		女性(N=581)		計(N=1131)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
メニエール病	20	3.6%	66	11.4%	86	7.6%
めまい	137	24.9%	229	39.4%	366	32.4%
中耳炎	76	13.8%	92	15.8%	168	14.9%
真珠腫性中耳炎	9	1.6%	4	0.7%	13	1.1%
鼻炎を起こしやすい	122	22.2%	151	26.0%	273	24.1%
難聴	112	20.4%	111	19.1%	223	19.7%
蓄膿症	73	13.3%	53	9.1%	126	11.1%
鼻血がよく出る	76	13.8%	66	11.4%	142	12.6%
鼻血が止まりにくい	20	3.6%	17	2.9%	37	3.3%
その他	1	0.2%	0	0.0%	1	0.1%

図 6-13 「耳・鼻の病気」  
上位5項目（男）

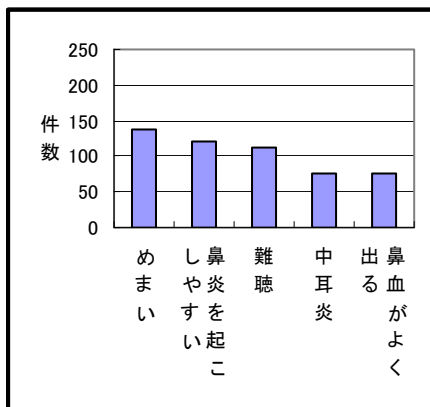


図 6-14 「耳・鼻の病気」  
上位5項目（女）

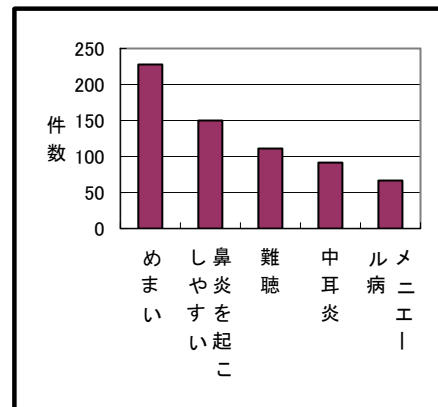


表 6-16 「耳・鼻の病気」の油症発症前後における罹患状況

	発症前		発症後		不明		計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
メニエール病	0	1	19	60	1	5	20	66
めまい	0	2	120	204	17	23	137	229
中耳炎	3	10	65	74	8	8	76	92
真珠腫性中耳炎	0	0	9	3	0	1	9	4
鼻炎を起こしやすい	2	2	111	132	9	17	122	151
難聴	5	3	96	97	11	11	112	111
蓄膿症	6	8	61	35	6	10	73	53
鼻血がよく出る	0	1	66	55	10	10	76	66
鼻血が止まりにくい	0	0	19	14	1	3	20	17
その他	0	0	1	0	0	0	1	0

(7) 甲状腺の病気について

「甲状腺の病気」にかかったことがあると回答したものは79人（男14人、女65人）で、女性が約8割を占めていた。男女ともに「甲状腺機能低下症」と回答した者が3.2%（男1.3%、女5.0%）と最も多く、女性では次いで「バセドウ病」が3.6%、「甲状腺腫」が2.2%等の順となっている。

表 6-17 「甲状腺の病気」の罹患状況（複数回答）

	男性(N=550)		女性(N=581)		計(N=1131)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
甲状腺がん	2	0.4%	6	1.0%	8	0.7%
甲状腺腫	1	0.2%	13	2.2%	14	1.2%
慢性甲状腺炎	4	0.7%	6	1.0%	10	0.9%
バセドウ病	1	0.2%	21	3.6%	22	1.9%
甲状腺機能低下症	7	1.3%	29	5.0%	36	3.2%

図 6-15 「甲状腺の病気」  
(男)

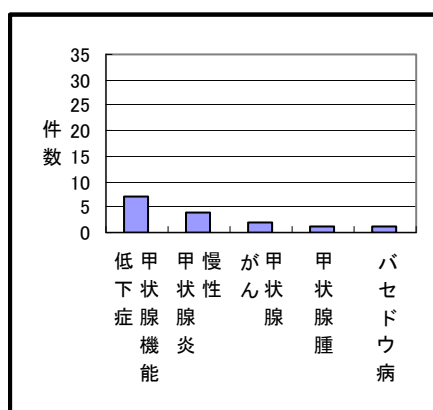


図 6-16 「甲状腺の病気」  
(女)

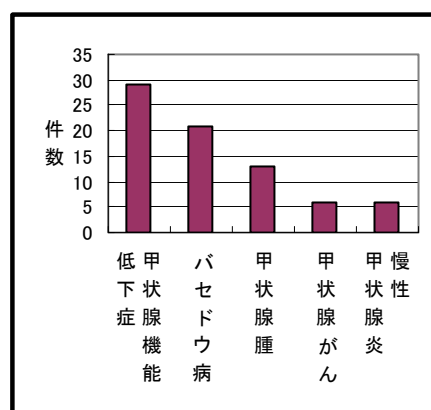


表 6-18 「甲状腺の病気」の油症発症前後における罹患状況

	発症前		発症後		不明		計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
甲状腺がん	0	0	2	5	0	1	2	6
甲状腺腫	0	0	0	12	1	1	1	13
慢性甲状腺炎	0	0	4	5	0	1	4	6
バセドウ病	0	2	1	18	0	1	1	21
甲状腺機能低下症	0	0	7	24	0	5	7	29



(8) のど・気管支・肺の病気について

「のど・気管支・肺の病気」にかかったことがあると回答した 787 人（男 389 人、女 398 人）に、その症状を質問したところ、「せき」と回答した者が 42.6%（男 43.6%、女 41.7%）と最も多く、次いで、「たん」が 42.5%（男 46.2%、女 39.1%）、「風邪を引きやすい」が 39.5%（男 36.5%、女 42.3%）等の順となっている。

表 6-19 「のど・気管支・肺の病気」の罹患状況（複数回答）

	男性(N=550)		女性(N=581)		計(N=1131)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
肺がん	9	1.6%	5	0.9%	14	1.2%
肺線維症	0	0.0%	1	0.2%	1	0.1%
無気肺	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
肺水腫	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
肺気腫	16	2.9%	7	1.2%	23	2.0%
肺炎	51	9.3%	57	9.8%	108	9.5%
慢性気管支炎	55	10.0%	56	9.6%	111	9.8%
嗄声(声がかれる)	53	9.6%	73	12.6%	126	11.1%
呼吸困難	27	4.9%	47	8.1%	74	6.5%
息切れ	114	20.7%	116	20.0%	230	20.3%
風邪を引きやすい	201	36.5%	246	42.3%	447	39.5%
風邪が治りにくい	139	25.3%	193	33.2%	332	29.4%
せき	240	43.6%	242	41.7%	482	42.6%
たん	254	46.2%	227	39.1%	481	42.5%
その他	0	0.0%	1	0.2%	1	0.1%

図 6-17 「のど・気管支・肺の病気」  
上位 5 項目（男）

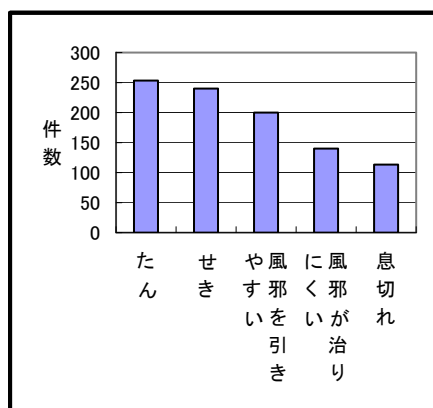


図 6-18 「のど・気管支・肺の病気」  
上位 5 項目（女）

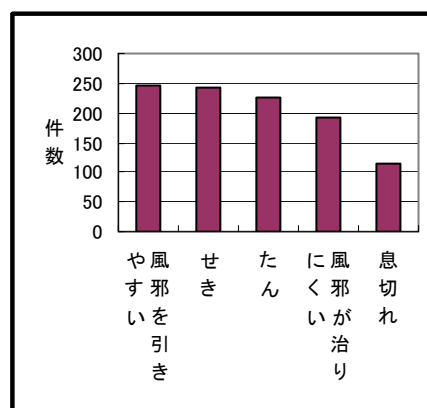


表 6-20 「のど・気管支・肺の病気」の油症発症前後における罹患状況

	発症前		発症後		不明		計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
肺がん	0	0	9	5	0	0	9	5
肺線維症	0	0	0	1	0	0	0	1
無気肺	0	0	0	0	0	0	0	0
肺水腫	0	0	0	0	0	0	0	0
肺気腫	0	0	16	5	0	2	16	7
肺炎	3	2	41	51	7	4	51	57
慢性気管支炎	2	1	47	48	6	7	55	56
嚙声(声がかれる)	1	0	47	62	5	11	53	73
呼吸困難	0	0	26	42	1	5	27	47
息切れ	0	0	98	105	16	11	114	116
風邪を引きやすい	4	5	170	205	27	36	201	246
風邪が治りにくい	3	1	124	172	12	20	139	193
せき	2	1	210	204	28	37	240	242
たん	2	1	220	189	32	37	254	227
その他	0	0	0	1	0	0	0	1

(9) 心臓の病気について

「心臓の病気」にかかったことがあると回答した 444 人（男 205 人、女 239 人）に、その症状を質問したところ、「動悸」と回答した者が 23.2%（男 18.5%、女 27.5%）と最も多く、次いで、「不整脈」が 20.2%（男 21.3%、女 19.3%）、「狭心症」が 6.7%（男 6.5%、女 6.9%）等の順となっている。

表 6-21 「心臓の病気」の罹患状況（複数回答）

	男性(N=550)		女性(N=581)		計(N=1131)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
心筋梗塞	11	2.0%	15	2.6%	26	2.3%
狭心症	36	6.5%	40	6.9%	76	6.7%
心不全	13	2.4%	13	2.2%	26	2.3%
心肥大	29	5.3%	46	7.9%	75	6.6%
不整脈	117	21.3%	112	19.3%	229	20.2%
頻脈	13	2.4%	30	5.2%	43	3.8%
動悸	102	18.5%	160	27.5%	262	23.2%

図 6-19 「心臓の病気」上位5項目（男）

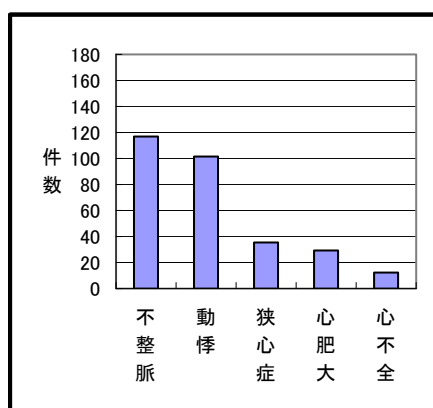


図 6-20 「心臓の病気」上位5項目（女）

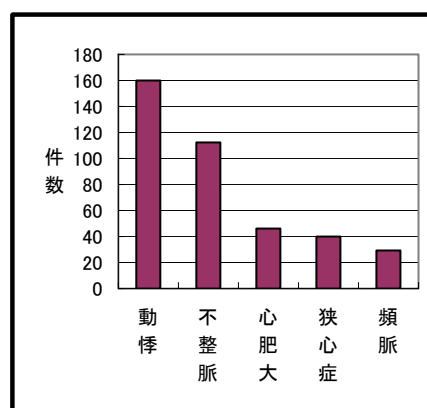


表 6-22 「心臓の病気」の油症発症前後における罹患状況

	発症前		発症後		不明		計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
心筋梗塞	0	0	10	13	1	2	11	15
狭心症	0	1	33	34	3	5	36	40
心不全	0	0	13	10	0	3	13	13
心肥大	3	0	25	40	1	6	29	46
不整脈	5	2	107	94	5	16	117	112
頻脈	0	2	12	26	1	2	13	30
動悸	0	2	95	135	7	23	102	160

(10) 高血圧や血管の病気について

「高血圧や血管の病気」にかかったことがあると回答した 548 人（男 234 人、女 314 人）に、その症状を質問したところ、男女ともに「高血圧」と回答した者が最も多く 34.1%（男 34.0%、女 34.3%）であった。次いで、「低血圧」が 12.6%（男 7.1%、女 17.9%）、「動脈硬化」が 5.7%（男 5.3%、女 6.0%）等の順となっている。

表 6-23 「高血圧や血管の病気」の罹患状況（複数回答）

	男性(N=550)		女性(N=581)		計(N=1131)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
高血圧	187	34.0%	199	34.3%	386	34.1%
低血圧	39	7.1%	104	17.9%	143	12.6%
動脈硬化	29	5.3%	35	6.0%	64	5.7%
動脈瘤	14	2.5%	4	0.7%	18	1.6%
静脈炎	0	0.0%	3	0.5%	3	0.3%
静脈瘤	13	2.4%	26	4.5%	39	3.4%

図 6-21 「高血圧や血管の病気」  
上位 5 項目（男）

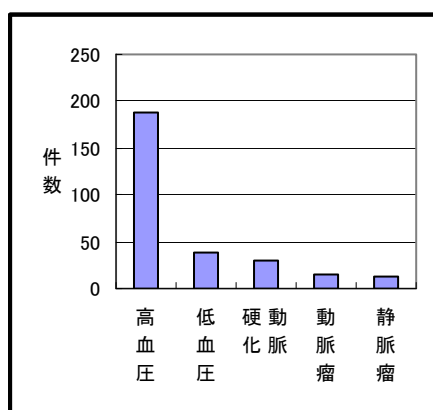


図 6-22 「高血圧や血管の病気」  
上位 5 項目（女）

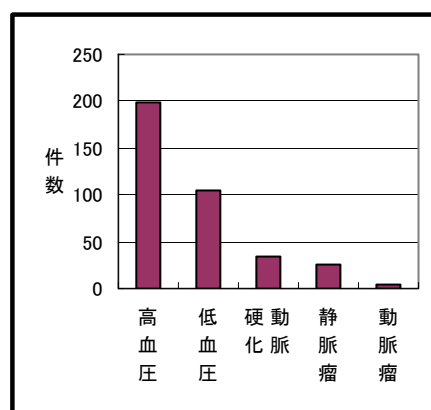


表 6-24 「高血圧や血管の病気」の油症発症前後における罹患状況

	発症前		発症後		不明		計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
高血圧	0	1	175	179	12	19	187	199
低血圧	4	3	29	84	6	17	39	104
動脈硬化	0	0	24	29	5	6	29	35
動脈瘤	0	0	13	4	1	0	14	4
静脈炎	0	0	0	3	0	0	0	3
静脈瘤	0	2	12	21	1	3	13	26

(11) 肝臓・胆のう・脾臓の病気について

「肝臓・胆のう・脾臓の病気」にかかったことがあると回答した 272 人（男 136 人、女 136 人）に、その症状を質問したところ、「肝機能障害」と回答した者が 11.7%（男 12.9%、女 10.5%）と最も多く、次いで、「胆石症」が 8.4%（男 7.8%、女 9.0%）、「B 型肝炎」が 2.9%（男 2.7%、女 3.1%）等の順となっている。

表 6-25 「肝臓・胆のう・脾臓の病気」の罹患状況（複数回答）

	男性(N=550)		女性(N=581)		計(N=1131)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
肝臓がん	7	1.3%	6	1.0%	13	1.1%
胆のうがん	2	0.4%	0	0.0%	2	0.2%
B型肝炎	15	2.7%	18	3.1%	33	2.9%
C型肝炎	8	1.5%	16	2.8%	24	2.1%
肝機能障害	71	12.9%	61	10.5%	132	11.7%
胆のう炎	13	2.4%	15	2.6%	28	2.5%
胆石症	43	7.8%	52	9.0%	95	8.4%
黄疸	14	2.5%	15	2.6%	29	2.6%
脾腫	2	0.4%	5	0.9%	7	0.6%

図 6-23 「肝臓・胆のう・脾臓の病気」  
上位 5 項目（男）

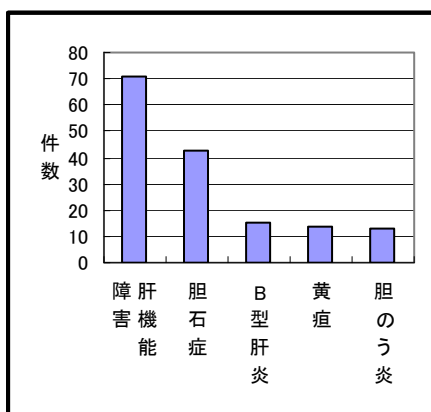


図 6-24 「肝臓・胆のう・脾臓の病気」  
上位 5 項目（女）

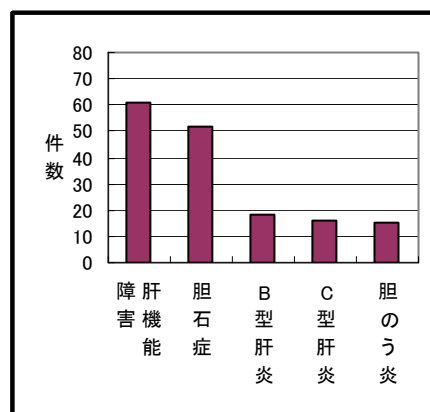


表 6-26 「肝臓・胆のう・脾臓の病気」の油症発症前後における罹患状況

	発症前		発症後		不明		計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
肝臓がん	0	0	7	6	0	0	7	6
胆のうがん	0	0	2	0	0	0	2	0
B型肝炎	2	1	13	16	0	1	15	18
C型肝炎	0	0	8	14	0	2	8	16
肝機能障害	0	1	64	55	7	5	71	61
胆のう炎	0	0	12	14	1	1	13	15
胆石症	0	1	41	47	2	4	43	52
黄疸	2	1	12	11	0	3	14	15
脾腫	0	0	1	4	1	1	2	5

(12) すい臓の病気について

「すい臓の病気」にかかったことがあると回答した 153 人（男 79 人、女 74 人）に、その症状を質問したところ、「糖尿病」と回答した者が 10.0%（男 11.5%、女 8.6%）と最も多く、次いで、「すい炎」が 3.9%（男 3.1%、女 4.6%）、「すい臓がん」が 0.5%（男 0.5%、女 0.5%）等の順となっている。

表 6-27 「すい臓の病気」の罹患状況（複数回答）

	男性(N=550)		女性(N=581)		計(N=1131)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
すい臓がん	3	0.5%	3	0.5%	6	0.5%
すい炎	17	3.1%	27	4.6%	44	3.9%
糖尿病	63	11.5%	50	8.6%	113	10.0%

図 6-25 「すい臓の病気」  
(男)

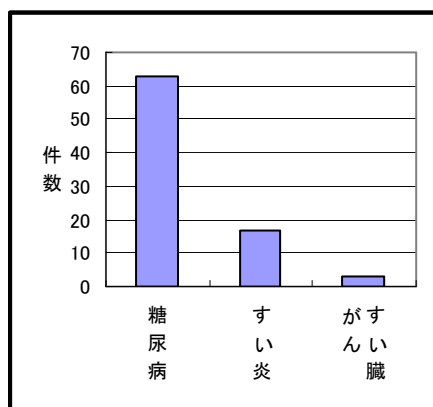


図 6-26 「すい臓の病気」  
(女)

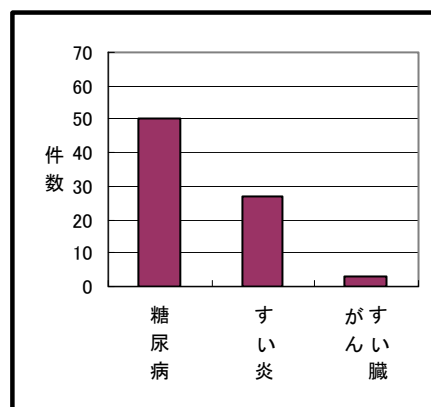


表 6-28 「すい臓の病気」の油症発症前後における罹患状況

	発症前		発症後		不明		計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
すい臓がん	0	0	1	2	2	1	3	3
すい炎	1	1	16	23	0	3	17	27
糖尿病	1	0	59	39	3	11	63	50

(13) 腎臓・膀胱の病気について

「腎臓・膀胱の病気」にかかったことがあると回答した394人（男155人、女239人）に、その症状を質問したところ、男性では「血尿」10.0%、尿管結石8.2%、「蛋白尿」7.1%等の順となっている。女性では「膀胱炎」28.6%、次いで血尿17.2%、蛋白尿8.4%等の順となっている。

表 6-29 「腎臓・膀胱の病気」の罹患状況（複数回答）

	男性(N=550)		女性(N=581)		計(N=1131)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
腎がん	3	0.5%	1	0.2%	4	0.4%
膀胱がん	8	1.5%	1	0.2%	9	0.8%
腎炎	21	3.8%	47	8.1%	68	6.0%
膀胱炎	35	6.4%	166	28.6%	201	17.8%
腎結石	29	5.3%	9	1.5%	38	3.4%
尿管結石	45	8.2%	13	2.2%	58	5.1%
膀胱結石	11	2.0%	3	0.5%	14	1.2%
血尿	55	10.0%	100	17.2%	155	13.7%
蛋白尿	39	7.1%	49	8.4%	88	7.8%

図 6-27 「腎臓・膀胱の病気」  
上位5項目（男）

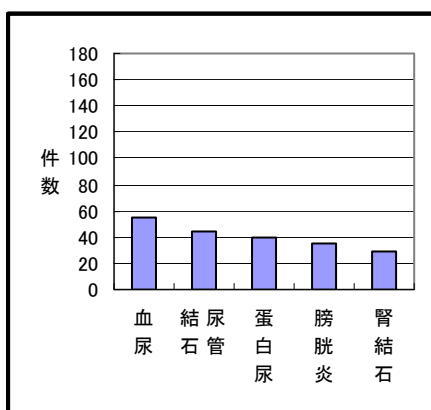


図 6-28 「腎臓・膀胱の病気」  
上位5項目（女）

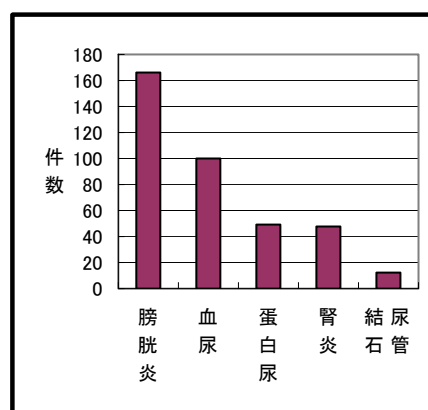


表 6-30 「腎臓・膀胱の病気」の油症発症前後における罹患状況

	発症前		発症後		不明		計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
腎がん	0	1	3	0	0	0	3	1
膀胱がん	0	0	6	1	2	0	8	1
腎炎	4	4	16	37	1	6	21	47
膀胱炎	0	6	32	144	3	16	35	166
腎結石	1	0	24	8	4	1	29	9
尿管結石	0	0	41	13	4	0	45	13
膀胱結石	0	0	10	3	1	0	11	3
血尿	0	0	50	92	5	8	55	100
蛋白尿	1	0	35	46	3	3	39	49

(14) 食道・胃・腸・肛門の病気について

「食道・胃・腸・肛門の病気」にかかったことがあると回答した 838 人（男 394 人、女 444 人）に、その症状を質問したところ、男性では「下痢」36.9%、「痔疾（ぢ）」29.8%、「便秘」29.1%等の順となっている。女性では「便秘」が 50.9%と最も多く、次いで「下痢」31.8%、腹部膨満感 29.4%等の順となっている。

表 6-31 「食道・胃・腸・肛門の病気」の罹患状況（複数回答）

	男性(N=550)		女性(N=581)		計(N=1131)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
食道がん	2	0.4%	0	0.0%	2	0.2%
胃がん	14	2.5%	5	0.9%	19	1.7%
大腸がん	13	2.4%	7	1.2%	20	1.8%
大腸ポリープ	89	16.2%	50	8.6%	139	12.3%
慢性胃炎	65	11.8%	62	10.7%	127	11.2%
胃潰瘍	95	17.3%	53	9.1%	148	13.1%
十二指腸潰瘍	82	14.9%	31	5.3%	113	10.0%
腸閉塞	10	1.8%	16	2.8%	26	2.3%
下痢	203	36.9%	185	31.8%	388	34.3%
便秘	160	29.1%	296	50.9%	456	40.3%
腹部膨満感(おなかが張る)	107	19.5%	171	29.4%	278	24.6%
痔疾(ぢ)	164	29.8%	147	25.3%	311	27.5%
その他	3	0.5%	0	0.0%	3	0.3%

図 6-29 「食道・胃・腸・肛門の病気」上位5項目（男）

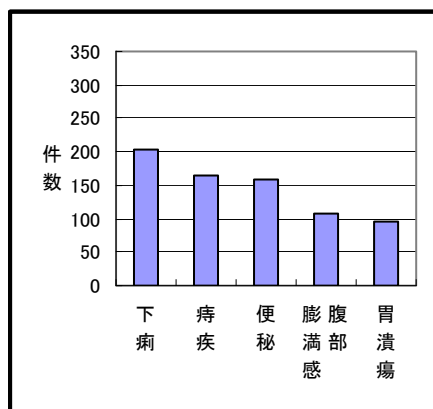


図 6-30 「食道・胃・腸・肛門の病気」上位5項目（女）

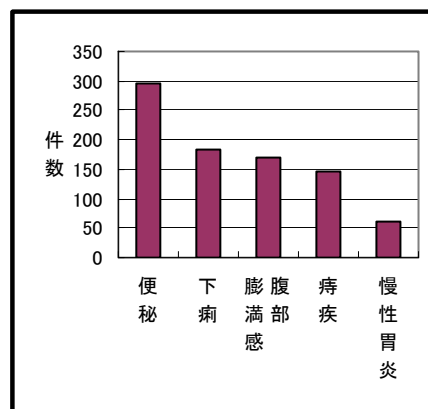


表 6-32 「食道・胃・腸・肛門の病気」の油症発症前後における罹患状況

	発症前		発症後		不明		計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
食道がん	0	0	2	0	0	0	2	0
胃がん	0	0	13	5	1	0	14	5
大腸がん	0	0	12	5	1	2	13	7
大腸ポリープ	0	0	86	47	3	3	89	50
慢性胃炎	3	1	56	53	6	8	65	62
胃潰瘍	2	0	88	49	5	4	95	53
十二指腸潰瘍	5	1	74	28	3	2	82	31
腸閉塞	0	0	8	15	2	1	10	16
下痢	3	1	174	163	26	21	203	185
便秘	2	3	135	250	23	43	160	296
腹部膨満感(おなかが張る)	0	0	89	150	18	21	107	171
痔疾(ぢ)	8	7	141	122	15	18	164	147
その他	1	0	1	0	1	0	3	0



(15) 血液・リンパの病気について

「血液・リンパの病気」にかかったことがあると回答した 348 人（男 120 人、女 228 人）に、その症状を質問したところ、男性では「高脂血症」12.0%、「貧血」10.2%、「リンパ節の腫大（リンパの腫れ）」が 2.5%等の順となっている。女性では「貧血」26.3%、「高脂血症」15.0%、「リンパ節の腫大（リンパの腫れ）」2.9%等の順となっている。

表 6-33 「血液・リンパの病気」の罹患状況（複数回答）

	男性(N=550)		女性(N=581)		計(N=1131)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
白血病	1	0.2%	0	0.0%	1	0.1%
悪性リンパ腫	1	0.2%	1	0.2%	2	0.2%
高脂血症	66	12.0%	87	15.0%	153	13.5%
貧血	56	10.2%	153	26.3%	209	18.5%
リンパ節の腫大(リンパの腫れ)	14	2.5%	17	2.9%	31	2.7%

図 6-31 「血液・リンパの病気」  
(男)

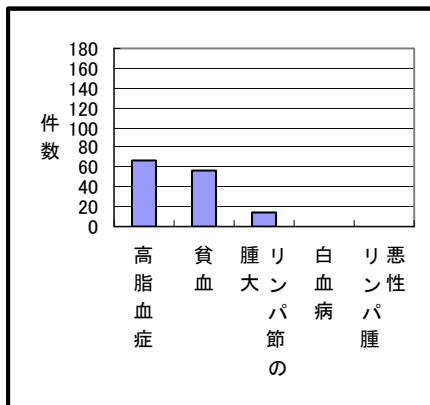


図 6-32 「血液・リンパの病気」  
(女)

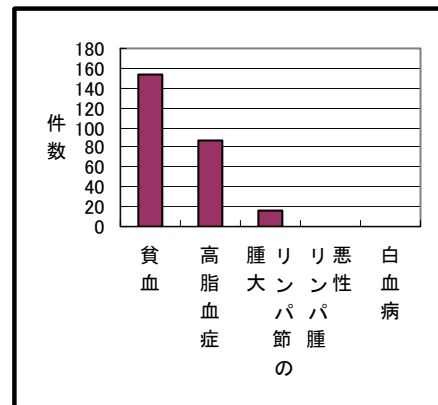


表 6-34 「血液・リンパの病気」の油症発症前後における罹患状況

	発症前		発症後		不明		計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
白血病	0	0	1	0	0	0	1	0
悪性リンパ腫	0	0	1	1	0	0	1	1
高脂血症	1	0	55	81	10	6	66	87
貧血	1	2	50	136	5	15	56	153
リンパ節の腫大(リンパの腫れ)	0	0	13	17	1	0	14	17

(16) 子宮・卵巣・婦人科系の病気について

「子宮・卵巣・婦人科系の病気」にかかったことがあると回答した 272 人に、その症状を質問したところ、「月経困難症(生理痛)」と回答した者が 16.7%と最も多く、次いで、「子宮筋腫」が 15.5%、「過多月経(月経が多い)」が 14.1%等の順となっている。

表 6-35 「子宮・卵巣・婦人科系の病気」の罹患状況(複数回答)

	女性(N=581)	
	件数	割合
子宮がん	9	1.5%
卵巣がん	2	0.3%
乳がん	13	2.2%
子宮内膜症	33	5.7%
子宮筋腫	90	15.5%
卵巣のう腫	22	3.8%
月経困難症(生理痛)	97	16.7%
不正出血	52	9.0%
月経不順	81	13.9%
過多月経(月経が多い)	82	14.1%
過少月経(月経が少ない)	29	5.0%

図 6-33 「子宮・卵巣・婦人科系の病気」上位5項目(女)

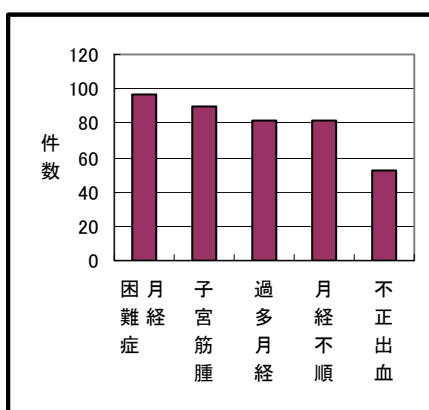


表 6-36 「子宮・卵巣・婦人科系の病気」の油症発症前後における罹患状況

	発症前	発症後	不明	計
子宮がん	1	8	0	9
卵巣がん	0	2	0	2
乳がん	0	11	2	13
子宮内膜症	1	28	4	33
子宮筋腫	4	76	10	90
卵巣のう腫	0	20	2	22
月経困難症(生理痛)	7	84	6	97
不正出血	0	46	6	52
月経不順	7	62	12	81
過多月経(月経が多い)	4	68	10	82
過少月経(月経が少ない)	3	26	0	29

(17) 妊娠について

「妊娠」したことがあると回答した450人を対象にその妊娠回数を見ると、「2回」と回答した者が24.4%と最も多く、次いで、「3回」が19.4%、「4回」が12.7%等の順となっている。

表 6-37 「妊娠回数」について

	女性(N=581)		
	回数	件数	割合
あり	1回	42	7.2%
	2回	142	24.4%
	3回	113	19.4%
	4回	74	12.7%
	5回	29	5.0%
	6回	25	4.3%
	7回	11	1.9%
	8回	6	1.0%
	9回	3	0.5%
	10回	2	0.3%
	11回以上	3	0.5%
	未回答	0	0.0%
	不詳	0	0.0%
小計	450	77.5%	
なし	90	15.5%	
未回答	41	7.1%	
不詳	0	0.0%	
計	581	100.0%	

(18) 前立腺・男性機能の病気について

「前立腺・男性機能に関する病気」にかかったことがあると回答した90人に、その症状を質問したところ、「前立腺肥大」と回答した者が11.3%と最も多く、次いで、「インポテンツ」が4.4%、「前立腺がん」が2.2%等の順となっている。

表 6-38 「前立腺・男性機能に関する病気」の罹患状況（複数回答）

	男性(N=550)	
	件数	割合
前立腺がん	12	2.2%
前立腺肥大	62	11.3%
男性不妊(子供ができない)	6	1.1%
インポテンツ	24	4.4%

図 6-34 「前立腺・男性機能に関する病気」(男)

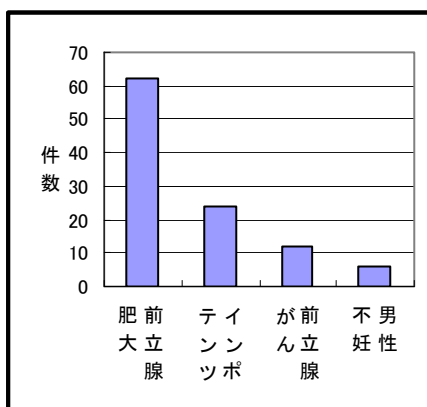


表 6-39 「前立腺・男性機能に関する病気」の油症発症前後における罹患状況

	発症前	発症後	不明	計
前立腺がん	0	12	0	12
前立腺肥大	0	58	4	62
男性不妊(子供ができない)	0	6	0	6
インポテンツ	0	22	2	24

(19) 骨・関節の病気について

「骨・関節の病気」にかかったことがあると回答した 962 人（男 450 人、女 512 人）に、その症状を質問したところ、「腰痛」と回答した者が 69.4%（男 68.0%、女 70.7%）と最も多く、次いで、「肩こり」が 58.4%（男 49.8%、女 66.4%）、「関節痛」が 41.2%（男 35.3%、女 46.8%）等の順となっている。

表 6-40 「骨・関節の病気」の罹患状況（複数回答）

	男性(N=550)		女性(N=581)		計(N=1131)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
骨肉腫	1	0.2%	0	0.0%	1	0.1%
骨折	85	15.5%	98	16.9%	183	16.2%
椎間板ヘルニア	89	16.2%	49	8.4%	138	12.2%
骨粗しょう症	13	2.4%	115	19.8%	128	11.3%
骨の変形	45	8.2%	110	18.9%	155	13.7%
ガングリオン	18	3.3%	30	5.2%	48	4.2%
痛風	49	8.9%	16	2.8%	65	5.7%
関節痛	194	35.3%	272	46.8%	466	41.2%
骨痛	28	5.1%	71	12.2%	99	8.8%
肩こり	274	49.8%	386	66.4%	660	58.4%
腰痛	374	68.0%	411	70.7%	785	69.4%
その他	1	0.2%	0	0.0%	1	0.1%

図 6-35 「骨・関節の病気」  
上位5項目（男）

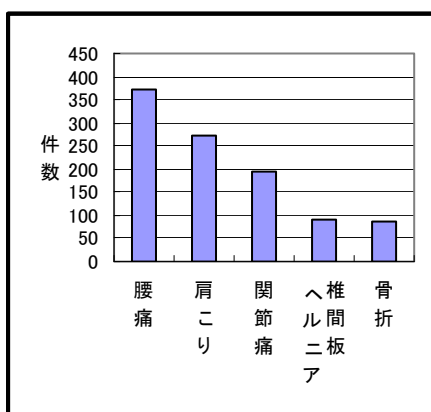


図 6-36 「骨・関節の病気」  
上位5項目（女）

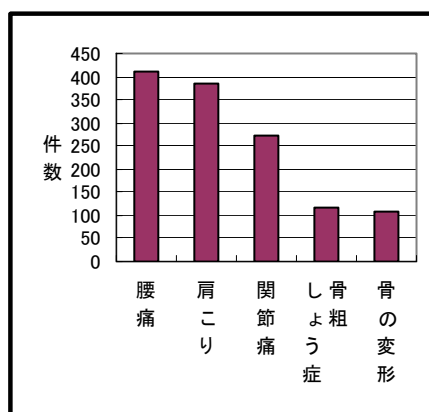


表 6-41 「骨・関節の病気」の油症発症前後における罹患状況

	発症前		発症後		不明		計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
骨肉腫	0	0	0	0	1	0	1	0
骨折	8	4	72	87	5	7	85	98
椎間板ヘルニア	1	1	86	44	2	4	89	49
骨粗しょう症	0	0	11	103	2	12	13	115
骨の変形	0	1	38	96	7	13	45	110
ガングリオン	0	0	18	26	0	4	18	30
痛風	0	0	44	12	5	4	49	16
関節痛	0	1	167	240	27	31	194	272
骨痛	0	0	23	64	5	7	28	71
肩こり	1	5	251	340	22	41	274	386
腰痛	1	0	332	357	41	54	374	411
その他	0	0	1	0	0	0	1	0

(20) 皮膚・爪の病気について

「皮膚・爪の病気」にかかったことがあると回答した 933 人（男 447 人、女 486 人）に、その症状を質問したところ、「皮膚の痒痒（かゆみ）」と回答した者が 47.8%（男 45.1%、女 50.4%）と最も多く、次いで、「湿疹がでしやすい」が 39.4%（男 34.5%、女 44.1%）、「爪の変形」が 37.8%（男 37.8%、女 37.7%）等の順となっている。

表 6-4 2 「皮膚・爪の病気」の罹患状況（複数回答）

	男性(N=550)		女性(N=581)		計(N=1131)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
皮膚がん	1	0.2%	7	1.2%	8	0.7%
ざ瘡(にきび)	189	34.4%	213	36.7%	402	35.5%
毛孔の開大・面疱(毛穴が広がる・黒にきび)	134	24.4%	141	24.3%	275	24.3%
色素沈着(肌が黒くなる)	158	28.7%	201	34.6%	359	31.7%
爪の変形	208	37.8%	219	37.7%	427	37.8%
粉瘤(皮膚のふくら)	110	20.0%	102	17.6%	212	18.7%
粘液嚢腫(関節のふくら)	16	2.9%	18	3.1%	34	3.0%
掌蹼膿疱症	14	2.5%	14	2.4%	28	2.5%
湿疹がでしやすい	190	34.5%	256	44.1%	446	39.4%
皮膚の痒痒(かゆみ)	248	45.1%	293	50.4%	541	47.8%
乾燥肌(さめ肌)	90	16.4%	145	25.0%	235	20.8%
脱毛	82	14.9%	78	13.4%	160	14.1%
白斑	15	2.7%	30	5.2%	45	4.0%
紫斑(内出血)	49	8.9%	86	14.8%	135	11.9%

図 6-3 7 「皮膚・爪の病気」  
上位 5 項目 (男)

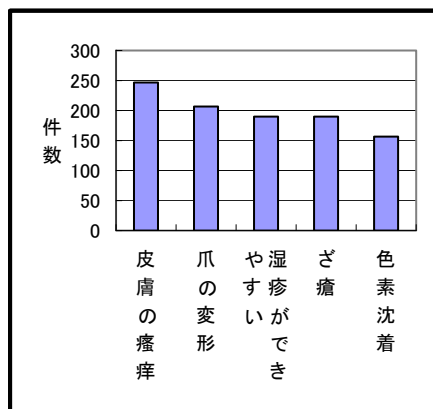


図 6-3 8 「皮膚・爪の病気」  
上位 5 項目 (女)

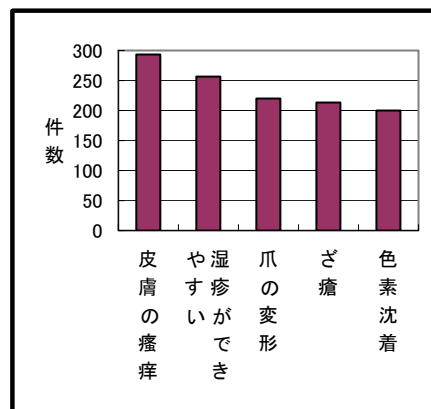


表 6-4 3 「皮膚・爪の病気」の油症発症前後における罹患状況

	発症前		発症後		不明		計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
皮膚がん	0	0	1	7	0	0	1	7
ざ瘡(にきび)	0	5	177	194	12	14	189	213
毛孔の開大・面疱(毛穴が広がる・黒にきび)	0	2	122	130	12	9	134	141
色素沈着(肌が黒くなる)	0	2	147	180	11	19	158	201
爪の変形	1	1	195	204	12	14	208	219
粉瘤(皮膚のふくら)	0	1	100	95	10	6	110	102
粘液嚢腫(関節のふくら)	0	0	15	16	1	2	16	18
掌蹼膿疱症	0	0	14	11	0	3	14	14
湿疹がでしやすい	0	6	181	230	9	20	190	256
皮膚の痒痒(かゆみ)	0	1	228	271	20	21	248	293
乾燥肌(さめ肌)	3	2	81	137	6	6	90	145
脱毛	1	0	79	73	2	5	82	78
白斑	0	1	15	26	0	3	15	30
紫斑(内出血)	0	0	43	78	6	8	49	86

(21) アレルギー疾患について

「アレルギー疾患」にかかったことがあると回答した 563 人（男 243 人、女 320 人）に、その症状を質問したところ、全体では「花粉症」と回答した者が 21.2%（男 19.6%、女 22.7%）と最も多く、次いで、「アレルギー性鼻炎」が 21.0%（男 17.1%、女 24.8%）、「蕁麻疹」が 16.9%（男 12.0%、女 21.5%）等の順となっている。

表 6-44 「アレルギー疾患」の罹患状況（複数回答）

	男性(N=550)		女性(N=581)		計(N=1131)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
アトピー性皮膚炎	21	3.8%	42	7.2%	63	5.6%
アレルギー性鼻炎	94	17.1%	144	24.8%	238	21.0%
花粉症	108	19.6%	132	22.7%	240	21.2%
喘息	55	10.0%	67	11.5%	122	10.8%
蕁麻疹	66	12.0%	125	21.5%	191	16.9%
食物アレルギー	27	4.9%	62	10.7%	89	7.9%
薬物アレルギー	29	5.3%	68	11.7%	97	8.5%

図 6-39 「アレルギー疾患」  
上位5項目（男）

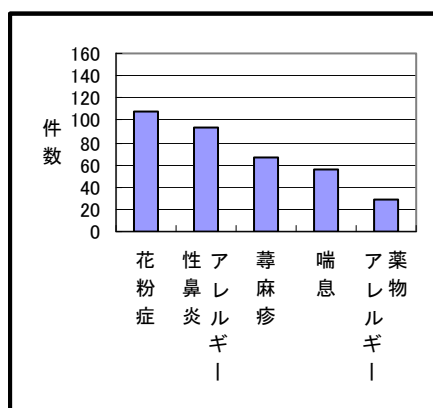


図 6-40 「アレルギー疾患」  
上位5項目（女）

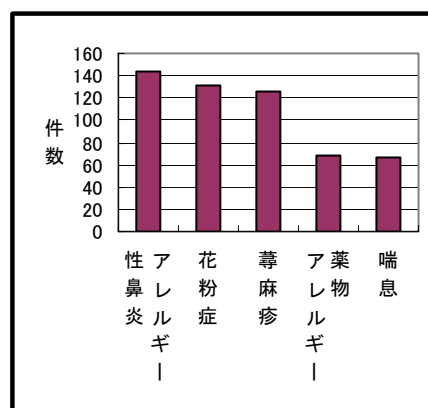


表 6-45 「アレルギー疾患」の油症発症前後における罹患状況

	発症前		発症後		不明		計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
アトピー性皮膚炎	1	2	18	37	2	3	21	42
アレルギー性鼻炎	0	2	87	131	7	11	94	144
花粉症	1	1	102	118	5	13	108	132
喘息	2	3	49	60	4	4	55	67
蕁麻疹	2	5	60	109	4	11	66	125
食物アレルギー	2	7	20	46	5	9	27	62
薬物アレルギー	1	3	26	58	2	7	29	68

(22) 膠原病について

「膠原病」にかかったことがあると回答した54人(男13人、女41人)に、その症状を質問したところ、「関節リウマチ」と回答した者が3.9%(男1.6%、女6.0%)と最も多く、次いで、「シェーグレン症候群」が0.4%(男0%、女0.7%)、「強皮症」及び「皮膚筋炎」が0.4%(男0.4%、女0.3%)等の順となっている。

表 6-46 「膠原病」の罹患状況(複数回答)

	男性(N=550)		女性(N=581)		計(N=1131)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
関節リウマチ	9	1.6%	35	6.0%	44	3.9%
全身性エリテマトーデス	0	0.0%	2	0.3%	2	0.2%
強皮症	2	0.4%	2	0.3%	4	0.4%
皮膚筋炎	2	0.4%	2	0.3%	4	0.4%
シェーグレン症候群	0	0.0%	4	0.7%	4	0.4%
ベーチェット病	1	0.2%	1	0.2%	2	0.2%

図 6-41 「膠原病」上位5項目(男)

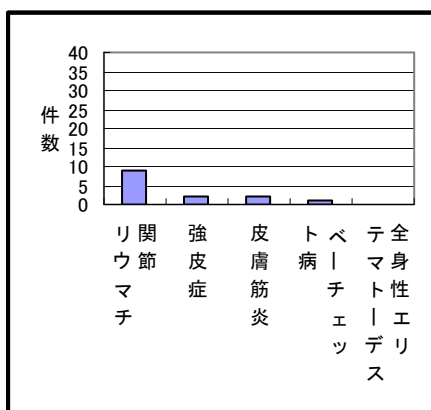


図 6-42 「膠原病」上位5項目(女)

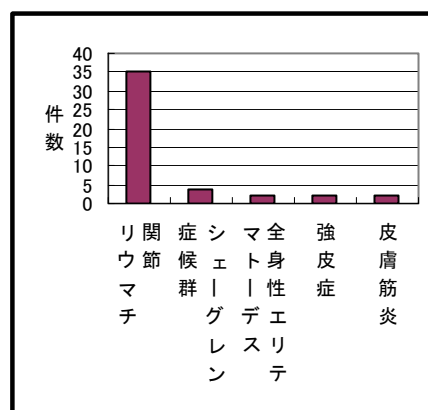


表 6-47 「膠原病」の油症発症前後における罹患状況

	発症前		発症後		不明		計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
関節リウマチ	0	0	9	31	0	4	9	35
全身性エリテマトーデス	0	0	0	2	0	0	0	2
強皮症	0	0	2	1	0	1	2	2
皮膚筋炎	0	0	1	2	1	0	2	2
シェーグレン症候群	0	0	0	3	0	1	0	4
ベーチェット病	0	0	1	1	0	0	1	1



(23) その他の病気について

「その他の病気」にかかったことがあると回答した907人(男435人、女472人)に、その症状を質問したところ、「全身倦怠感(体がだるい)」と回答した者が59.7%(男58.5%、女60.8%)と最も多く、次いで、「手足のしびれ」が56.8%(男53.5%、女59.9%)、「体がつる」が35.7%(男31.3%、女39.9%)等の順となっている。

表 6-48 「その他の病気」の罹患状況(複数回答)

	男性(N=550)		女性(N=581)		計(N=1131)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
全身倦怠感(体がだるい)	322	58.5%	353	60.8%	675	59.7%
手足のしびれ	294	53.5%	348	59.9%	642	56.8%
体がつる	172	31.3%	232	39.9%	404	35.7%
のどがつる	14	2.5%	34	5.9%	48	4.2%
筋肉の痛み	135	24.5%	162	27.9%	297	26.3%
体がむくむ	122	22.2%	215	37.0%	337	29.8%
その他	1	0.2%	1	0.2%	2	0.2%

図 6-43 「その他の病気」  
上位5項目(男)

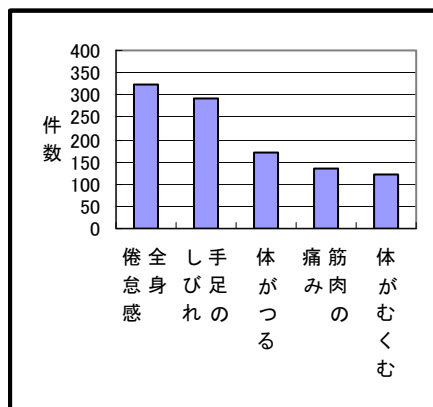


図 6-44 「その他の病気」  
上位5項目(女)

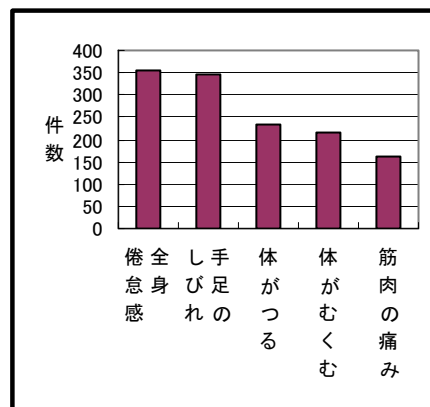


表 6-49 「その他の病気」の油症発症前後における罹患状況

	発症前		発症後		不明		計	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
全身倦怠感(体がだるい)	2	1	290	312	30	40	322	353
手足のしびれ	0	3	264	306	30	39	294	348
体がつる	0	0	144	208	28	24	172	232
のどがつる	0	1	11	25	3	8	14	34
筋肉の痛み	1	0	120	142	14	20	135	162
体がむくむ	0	0	106	189	16	26	122	215
その他	0	0	0	1	1	0	1	1

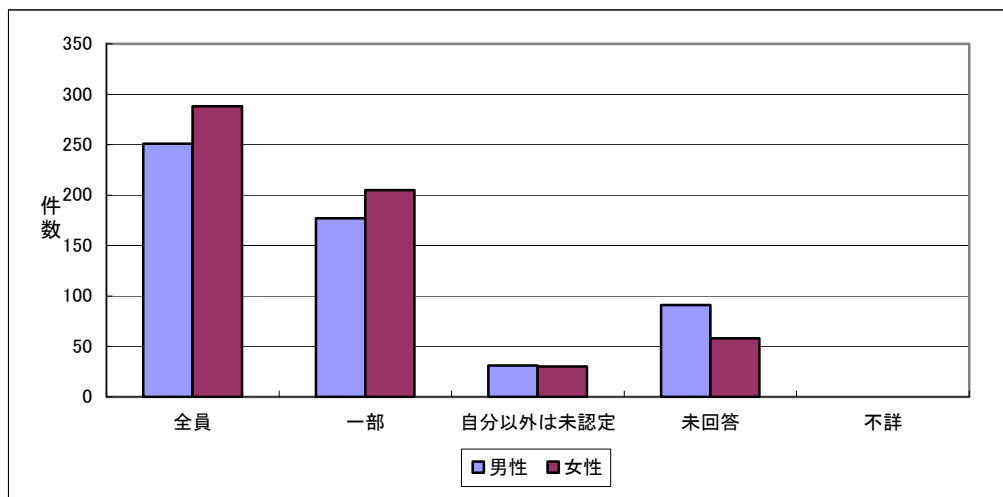
7 油症発症当時の家族の状況について

油症事件が発生した当時の同居家族の認定状況についてみると、家族全員が認定されている場合が 47.7% (男 45.6%、女 49.6%)、家族の一部が認定されている場合が 33.8% (男 32.2%、女 35.3%)、調査協力者のみ認定されている場合が 5.4% (男 5.6%、女 5.2%) 等となっている (表 7-1、図 7-1)。

表 7-1 同居家族の認定状況

認定状況	男性(N=550)		女性(N=581)		計(N=1131)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
全員	251	45.6%	288	49.6%	539	47.7%
一部	177	32.2%	205	35.3%	382	33.8%
自分以外は未認定	31	5.6%	30	5.2%	61	5.4%
未回答	91	16.5%	58	10.0%	149	13.2%
不詳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	550	100.0%	581	100.0%	1131	100.0%

図 7-1 同居家族の認定状況



※表 7-1 及び図 7-1 における各項目の詳細は、以下のとおり。

- ・ 「全員」とは、本人と家族全員が認定されている状態を指す。
- ・ 「一部」とは、本人と家族のうち一部が認定されており、未認定の家族もいる状態を指す。
- ・ 「自分以外は未認定」とは、調査協力者以外の家族が全て未認定である状態を指す。
- ・ 「未回答」とは、認定状況の記載された家族がいない状態を指す。

油症発症当時の家族の状況については、調査票 39 頁から 52 頁までに記載された詳細な情報と、全国油症治療研究班が所有する各患者の家族状況を照合することで、当時の認定患者の家族構成、カネミ油の摂取状況、子や孫の状況等をより正確に把握することが可能になると考えられる。今後、全国油症治療研究班において、照合作業で得たデータを基に、検診等のデータと併せて解析することにより、家族内での油症発症に関する研究や次世代への影響に関する研究の推進が期待される。

なお、その際には、個人情報の保護に十分配慮することが必要である。

8 油症発生からこれまでの症状について

選択方式（複数回答）にて油症発症からこれまでの症状について質問したところ、「疲れやすい」と回答した者が73.3%と最も多く、次いで、「目が疲れやすい」69.8%、「目がかすむ」56.4%、「集中力が低下している」45.4%、「手足に痛みがある」44.1%、「体の一部にできものが続いている」43.1%、「目がかゆい」43.0%等の順となっている（表 8-1）。

表 8-1 油症発症からこれまでの本人の症状（複数回答）

	男性 (N=550)		女性 (N=581)		計 (N=1131)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
疲れやすい	392	71.3%	437	75.2%	829	73.3%
目が疲れやすい	365	66.4%	424	73.0%	789	69.8%
目がかすむ	300	54.5%	338	58.2%	638	56.4%
集中力が低下している	244	44.4%	269	46.3%	513	45.4%
手足に痛みがある	214	38.9%	285	49.1%	499	44.1%
体の一部にできものが続いている	258	46.9%	229	39.4%	487	43.1%
目がかゆい	210	38.2%	276	47.5%	486	43.0%
よく背中が痛くなる	170	30.9%	217	37.3%	387	34.2%
よくお腹が痛くなる	178	32.4%	197	33.9%	375	33.2%
朝目覚めた時や昼寝から覚めたとき手足がしびれている	157	28.5%	218	37.5%	375	33.2%
歯が浮く(ぐらぐらする)	190	34.5%	158	27.2%	348	30.8%
のどの痛み・渴き	160	29.1%	186	32.0%	346	30.6%
耳が聞こえにくい・聞こえない	163	29.6%	176	30.3%	339	30.0%
油症発症後間もなく歯が折れたり抜けたりした	167	30.4%	164	28.2%	331	29.3%
目が赤くなる	144	26.2%	179	30.8%	323	28.6%
涙目	138	25.1%	181	31.2%	319	28.2%
ガーガー・ジージーと耳鳴りがする	150	27.3%	164	28.2%	314	27.8%
パソコンや携帯電話などを使用していると、手がこわばる、肩がこる、頭が痛くなるなどの不調がある	159	28.9%	131	22.5%	290	25.6%
脂っこいものを食べるとお腹がムカムカする	132	24.0%	157	27.0%	289	25.6%
胸の痛みがある	125	22.7%	162	27.9%	287	25.4%
膝が痛く、歩行が困難である	97	17.6%	189	32.5%	286	25.3%
体の一部が痙攣する	138	25.1%	146	25.1%	284	25.1%
明るい日差しのある場所が異常にまぶしく、見るのが困難である	109	19.8%	163	28.1%	272	24.0%
永久歯(全歯)を早期に失った	127	23.1%	134	23.1%	261	23.1%
朝起きられない	100	18.2%	153	26.3%	253	22.4%
計算間違いが多い	123	22.4%	118	20.3%	241	21.3%
軟骨が出たり骨の曲がりが進んでいる	75	13.6%	153	26.3%	228	20.2%
蚊に刺されるだけで化膿して傷になり、治りにくい	82	14.9%	143	24.6%	225	19.9%
全身に痛みがある	87	15.8%	132	22.7%	219	19.4%
手足の皮がむける	116	21.1%	102	17.6%	218	19.3%
体のある部分だけ冷たく、血液や神経が通っていないように感じる	73	13.3%	135	23.2%	208	18.4%
体温調節がうまく出来ない	62	11.3%	144	24.8%	206	18.2%
食後、お腹が張って苦しくなる	84	15.3%	117	20.1%	201	17.8%
股関節が痛くなり、歩くことが困難になる	71	12.9%	128	22.0%	199	17.6%

(次ページへ)

## (つづき)

	男性(N=550)		女性(N=581)		計(N=1131)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
高血圧と低血圧が混在している(血圧の差が激しい)	96	17.5%	95	16.4%	191	16.9%
のどが詰まる	81	14.7%	103	17.7%	184	16.3%
指が腫れる	53	9.6%	128	22.0%	181	16.0%
目の焦点が合わない	94	17.1%	84	14.5%	178	15.7%
針で刺されるような痛みがある	74	13.5%	103	17.7%	177	15.6%
けがが多い	70	12.7%	94	16.2%	164	14.5%
握力が低下し指先を使うことが困難である	52	9.5%	111	19.1%	163	14.4%
口が苦い	63	11.5%	93	16.0%	156	13.8%
化学物質に過敏である	54	9.8%	101	17.4%	155	13.7%
日光に当たると顔が腫れたり湿疹ができたりする	47	8.5%	105	18.1%	152	13.4%
体の至る所でさまざまな病気を繰り返している	51	9.3%	87	15.0%	138	12.2%
手首が少しでも締まった服は、血流を阻害される感 いで着られない	51	9.3%	87	15.0%	138	12.2%
突然、お腹が張って苦しくなり、ファスナーを外すこと がある	49	8.9%	88	15.1%	137	12.1%
お腹や背中への痛みがあちこちに移動する	44	8.0%	91	15.7%	135	11.9%
突然尿が出にくくなり、顔や体がむくむ	55	10.0%	72	12.4%	127	11.2%
自殺したいと思うことがある	37	6.7%	73	12.6%	110	9.7%
(骨を折るほどのことではない)ちょっとした事で骨折し た	29	5.3%	68	11.7%	97	8.6%
夜間に全身の激痛に襲われる	33	6.0%	53	9.1%	86	7.6%
舌・口内に苔が生える	40	7.3%	39	6.7%	79	7.0%
突然、意識を失うことがある	27	4.9%	32	5.5%	59	5.2%
突然、首に内圧がかかり硬くなって苦しくなり、吐き 気を伴うこともある	18	3.3%	37	6.4%	55	4.9%
歯牙の異常	25	4.5%	27	4.6%	52	4.6%
歯列以外に歯が生えた	24	4.4%	20	3.4%	44	3.9%
顎がよくはずれる	15	2.7%	22	3.8%	37	3.3%
肝臓の後ろ辺りの背中がぼっこり腫れる	22	4.0%	14	2.4%	36	3.2%
手足が異常に黄色くなる	14	2.5%	20	3.4%	34	3.0%
性器に異常がある	14	2.5%	18	3.1%	32	2.8%
乳房に異常がある	2	0.4%	28	4.8%	30	2.7%
寝たきりあるいは車椅子の生活である	11	2.0%	16	2.8%	27	2.4%
生まれつき歯が足りない	7	1.3%	15	2.6%	22	1.9%
全身が痙攣する	9	1.6%	8	1.4%	17	1.5%
女性のあごひげ・鼻ひげ	0	0.0%	17	2.9%	17	1.5%
骨の壊死により体の一部を手術した	5	0.9%	10	1.7%	15	1.3%
未回答	36	6.5%	41	7.1%	77	6.8%
不詳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

※計を降順に並べ替えた(未回答、不詳除く)

9 油症事件後に生まれたお子さんについて

選択方式（複数回答）にて油症事件発生後（昭和43年2月以降）に生まれたお子さんの症状について質問したところ、1,131人中432人から回答を得た。その内容をみると、「湿疹が出来やすい」と回答した者が162人と最も多く、次いで、「疲れやすい」が158人、「鼻血がよく出る」が132人等の順となっている（表9-1）。

なお、両親が共に認定されており、本調査に協力している場合、同じお子さんについて両親からの回答があり、二重に計上されている可能性がある。

表 9-1 お子さんの症状（複数回答）

	件数
湿疹が出来やすい	162
疲れやすい	158
鼻血がよく出る	132
頭痛をたびたび訴える	116
気管支炎を繰り返した	107
歯並びが悪い	105
蚊に刺された後すぐ化膿し、治りにくい	105
肩こりがひどい	104
鼻に問題がある	99
下痢をしやすい	92
喘息がある	91
腹痛やお腹の張りをたびたび訴える	88
便秘	84
黒い皮膚で生まれた	66
虚弱体質	55
高熱が続いた	54
生理に異常がある	51
耳に問題がある	51
鼻血が止まりにくい	43
原因不明の高熱が出る	43
出生時、たくさんの吹き出物ができていた	39
胃炎	36
乳歯がうまく抜けず、何度も歯科で強制的に抜いた	31
胸が痛いと言う	31
低体重	29
乳歯が抜けてもなかなか永久歯が生えて来なかった	28
不整脈	28
弱視	27
未熟児	27
肥満	25
抜け毛	25
歯が足りない	24
大きなあざ	23
呼吸困難の状態で生まれた	22
難聴	18
骨に異常があった	17

(次ページへ)

(つづき)

	件数
発達障害	16
肝機能障害	16
学習障害	15
冷房にあたると関節が痛む	15
血尿	15
心臓疾患	15
眼球の異常	14
歯が生えて生まれた	13
腎臓炎	12
紫斑病	11
頻尿	11
胃潰瘍	11
奇形で生まれた	10
脳に異常があった	10
自閉症	9
手足が異常に黄色くなる	9
言語障害	8
川崎病	7
乳房が発育しない	6
無月経	4
尿道異常	2
性染色体異常	2
口蓋裂	1
膀胱がん	1
突然死	1
肛門がなかった	0
未回答	699
不詳	0

※計を降順に並べ替えた(未回答、不詳除く)

## 10 油症事件後に生まれたお孫さんについて

選択方式（複数回答）にて油症事件発生後（昭和43年2月以降）に生まれたお孫さんの症状について質問したところ、1,131人中173人から回答を得た。その内容をみると、「湿疹が出来やすい」と回答した者が60人と最も多く、次いで、「喘息がある」が52人、「蚊に刺された後すぐ化膿し、治りにくい」が49人等の順となっている（表10-1）。

なお、祖父母が共に認定されており、本調査に協力している場合、同じお孫さんについて複数の祖父母からの回答があり、件数に複数回計上されている可能性がある。

表 10-1 お孫さんの症状（複数回答）

	件数
湿疹が出来やすい	60
喘息がある	52
蚊に刺された後すぐ化膿し、治りにくい	49
気管支炎を繰り返した	44
疲れやすい	40
鼻血がよく出る	38
頭痛をたびたび訴える	31
鼻に問題がある	30
歯並びが悪い	29
腹痛やお腹の張りをたびたび訴える	23
下痢をしやすい	22
便秘	20
肩こりがひどい	18
原因不明の高熱が出る	16
黒い皮膚で生まれた	15
高熱が続いた	15
虚弱体質	15
鼻血が止まりにくい	15
出生時、たくさんの吹き出物ができていた	13
耳に問題がある	13
未熟児	13
発達障害	12
弱視	11
乳歯がうまく抜けず、何度も歯科で強制的に抜いた	11
乳歯が抜けてもなかなか永久歯が生えて来なかった	11
学習障害	10
生理に異常がある	10
大きなあざ	10
歯が足りない	9
奇形で生まれた	8
冷房にあたると関節が痛む	8
低体重	8
呼吸困難の状態生まれた	7
抜け毛	7

（次ページへ）



(つづき)

	件数
脳に異常があった	6
骨に異常があった	6
言語障害	6
歯が生えて生まれた	4
胸が痛いと言う	4
頻尿	4
川崎病	4
自閉症	3
肥満	3
眼球の異常	3
血尿	3
胃炎	3
不整脈	3
心臓疾患	3
手足が異常に黄色くなる	2
口蓋裂	1
腎う炎	1
胃潰瘍	1
突然死	1
肛門がなかった	0
難聴	0
紫斑病	0
乳房が発育しない	0
肝機能障害	0
尿道異常	0
膀胱がん	0
性染色体異常	0
無月経	0
未回答	958
不詳	0

※計を降順に並べ替えた(未回答、不詳除く)

1 1 医療、検診等について

カネミ倉庫が発行している「油症券」の所持や治療費の請求状況については、表 1 1-1 から表 1 1-2 のとおりであった。

また、全国油症治療研究班が実施している検診の受診状況や相談員制度の利用状況については、表 1 1-3 から表 1 1-5 のとおりであった。

表 1 1-1 カネミ倉庫が発行している「油症券」の所持状況

	男性(N=550)		女性(N=581)		計(N=1131)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
はい	272	49.5%	300	51.6%	572	50.6%
いいえ	240	43.6%	241	41.5%	481	42.5%
未回答	38	6.9%	40	6.9%	78	6.9%
不詳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	550	100.0%	581	100.0%	1131	100.0%

表 1 1-2 カネミ倉庫への治療費請求の有無

	男性(N=550)		女性(N=581)		計(N=1131)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
ある	288	52.4%	334	57.5%	622	55.0%
ない	224	40.7%	206	35.5%	430	38.0%
未回答	38	6.9%	41	7.1%	79	7.0%
不詳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	550	100.0%	581	100.0%	1131	100.0%

表 1 1-3 油症治療研究班が実施している検診を受けたことがあるか

	男性(N=550)		女性(N=581)		計(N=1131)	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
ある	346	62.9%	407	70.1%	753	66.6%
ない	167	30.4%	139	23.9%	306	27.1%
未回答	37	6.7%	35	6.0%	72	6.4%
不詳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	550	100.0%	581	100.0%	1131	100.0%

表 11-4 油症治療研究班の相談員制度の認知状況

		男性(N=550)		女性(N=581)		計(N=1131)	
		件数	割合	件数	割合	件数	割合
相談員がいることを	知っている	241	43.8%	280	48.2%	521	46.1%
	知らない	253	46.0%	238	41.0%	491	43.4%
	未回答	56	10.2%	63	10.8%	119	10.5%
	不詳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計		550	100.0%	581	100.0%	1131	100.0%

表 11-5 油症治療研究班の相談員と話したことがあるか

		男性(N=550)		女性(N=581)		計(N=1131)	
		件数	割合	件数	割合	件数	割合
話したことが	ある	126	22.9%	151	26.0%	277	24.5%
	ない	326	59.3%	332	57.1%	658	58.2%
	未回答	98	17.8%	98	16.9%	196	17.3%
	不詳	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計		550	100.0%	581	100.0%	1131	100.0%

## 1 2 調査票の自由記載欄について

本調査では、「油症発症後のご苦勞・思い・社会的に受けた差別・研究してもらいたいこと・要望等」について自由記載欄を設けたところ、約 630 人の記載があった。いずれも、回答いただいた一人一人の貴重なご意見ではあるが、個人情報を含む内容もあり、また、公表にあたっての認識が一人一人異なることから、本報告書には主な内容を記載するにとどめることとした。

なお、全国油症治療研究班等への要望については、それぞれ関係者に内容を伝えることとした。

### 自由記載欄の主な記載内容

- 自分、家族の健康に関する不安、生活上のストレス等について（約 340 件）
  - 両親ががんで亡くなった為にがんに対する不安がある。
  - 自分の子供がこれからどうなるのか心配。
  - 黒い赤ちゃんが生まれるのではないかと不安で結婚しなかった。
  - 油症患者と知られたくなかった。
  - カネミと聞くだけで精神的に苦しかった。
  - 今後のことが不安で眠れない。
  - 家族に食べさせたことが苦しい。                    等
  
- 油症により受けた差別、偏見について（約 80 件）
  - 油症のことを誰にも話すことができなかった。
  - 外見ではわからないので辛い。
  - いじめにあった。
  - 世間から変な目で見られ、悔しい思いをした。
  - 風呂屋に行くのも大変だった。                    等
  
- 油症発症当時の状況について（約 90 件）
  - 病院に行ってもなかなか原因がわからなかった。
  - 皮膚の症状がひどくプールに入れなかった。                    等
  
- 職業（仕事）に関する苦勞について（約 20 件）
  - 体がだるくて仕事が続けられるのか不安が大きかった。
  - 体調不良のため転職を余儀なくされた。
  - 病気持ちだと雇ってもらえなかった。                    等

- 経済的な苦勞について（約 30 件）  
生活の保障をして欲しい。  
たくさんの病気を繰り返し大変な医療費だった。  
検診よりも直接生活を助けて欲しい。 等
  
- 治療法の研究開発への要望、期待（約 110 件）  
ダイオキシンを体外に排泄する方法を早く研究して欲しい。  
なんとか有効な治療法を開発して欲しい。  
研究の内容をわかりやすく教えて欲しい。  
研究結果を報告して欲しい。  
もっと色々な被害者の情報を公開して欲しい。 等
  
- 病院、医師、検診に関する要望（約 40 件）  
入院治療ができる専門病院が出来たらと思う。  
検診が平日なので仕事を休まなければならない。行けない。  
医療機関の数を増やして欲しい。  
検診の結果をもう少しわかりやすくして欲しい。  
検診時にアドバイスが欲しい。 等
  
- 行政機関に対する要望（約 100 件）  
安定した救済策を確立して欲しい。  
医療費や健康管理手当など原爆被爆者と同じ扱いにして欲しい。  
油証券を原爆手帳のように全国で使えるようにして欲しい。  
認定基準の見直しを望む。  
患者の救済、未認定患者の認定等、根本的解決に向かって進むことを願う。  
もっと早く調査をして欲しかった。  
二度と同じことを起こさないように食の安全に取り組んで欲しい。 等
  
- カネミ倉庫に対する要望（約 40 件）  
カネミ倉庫、国に医療保障、生活保障をして欲しい。  
油証券はどここの病院でも使用出来るようにして欲しい。 等
  
- その他（約 90 件）  
思い出したくない。そっとしておいて欲しい。  
研究については必要があればいつでも協力したい。  
今後は調査には協力したくない。  
これまでの関係者の対応に感謝している。  
今は元気に過ごすことが出来るようになり感謝している。 等